令和６（２０２４）年度

事業報告書

学校法人 東京聖徳学園

SEITOKU

目　次

Ⅰ．学校法人の概要
１．基本情報……1
２．建学の精神……1
３．学校法人の沿革……1
４．設置学校等……5
５．学校・学部・学科等の学生数の状況……6
６．主要な運営指標等の推移……8
７．役員の概要……10
８．評議員の概要……11
９．教職員の概要……12

Ⅱ．事業の概要
１．法人（学園全体）……14
２．聖徳大学・聖徳大学短期大学部……16
３．聖徳大学幼児教育専門学校……26
４．光英 VERITAS 中学校・高等学校……30
５．聖徳大学附属取手聖徳女子中学校・高等学校……34
６．聖徳大学附属小学校……40
７．聖徳大学附属幼稚園・附属第二幼稚園・附属成田幼稚園・附属浦安幼稚園‥43
８．聖徳大学三田幼稚園……48
９．聖徳大学八王子幼稚園……51
10．聖徳大学多摩幼稚園……56

Ⅲ．財務の概要……58

Ⅰ．学校法人の概要

１．基本情報

① 法人の名称	学校法人東京聖徳学園
② 主たる事務所の住所	東京都港区三田三丁目４番 28 号
③ 電話番号	03-5476-8811
④ FAX 番号	03-5476-8820
⑤ ホームページアドレス	https://www.seitoku-u.ac.jp/gakuen/

２．建学の精神

聖徳学園の創立は、昭和８年（1933 年）にまでさかのぼります。学園創立者の川並香順先生・孝子先生は、より豊かな人間社会を実現するには、豊かな人間性と真の意味の学力を備えた「人づくり」が最も重要だと思い至りました。「人づくり」を実現するために建学の精神は、道徳や礼節を説いた聖徳太子の教えにもある「和」の精神と定め、聖徳学園を開学しました。

より豊かな人間社会を実現するためには、学園創立当時には社会的な弱者であった女性と幼児の教育が最も大切だと考え、女子教育と幼児教育に専念しました。以来、時代にふさわしい女子教育と幼児教育を実践することで多くの成果をあげ、「保育の聖徳® 」と高い評価を得るに至りました。

教育の本質は「大切なことは何か」を教えることです。大切なものとは、いつの時代も変わらない人間としての生き方です。私たちはその考え方を、創立者川並香順・孝子両先生の時代から連綿と受け継ぎ、幼児教育から高等教育まで一貫した教育により、実現してきました。

そして、私たちの実践する教育は、卒業し、社会人となったとき、また家庭人になったときに、はじめて結実する人間教育にほかならないのです。

３．学校法人の沿革

昭和　８年	４月	東京市大森において聖徳家政学院、新井宿幼稚園を創立(現 大田区)
昭和１９年	３月	聖徳家政学院を聖徳学園保母養成所として設立認可
昭和２４年	３月	財団法人聖徳学園を東京都港区三田に設立認可
昭和２７年	１０月	新井宿幼稚園は聖徳学園三田幼稚園として再開
昭和２９年	７月	聖徳学園三田幼稚園を設置認可
昭和３２年	４月	財団法人聖徳学園は学校法人東京聖徳学園として設立認可
昭和４０年	１月	聖徳学園短期大学を千葉県松戸市相模台に設置認可
		短期大学に家政科、保育科を設置認可
昭和４１年	４月	聖徳学園短期大学附属幼稚園を千葉県松戸市相模台に設置認可
昭和４４年	２月	短期大学に文学科、音楽科、保育科第二部を設置認可
昭和４６年	３月	聖徳学園短期大学附属第二幼稚園を千葉県松戸市小金原に設置認可
昭和４７年	１月	短期大学に初等教育学科を設置認可
		短期大学に通信教育部保育科を開設認可
昭和４９年	３月	聖徳学園八王子中央幼稚園を東京都八王子市椚田町に設置認可

昭和５１年　２月　聖徳学園短期大学附属第三幼稚園を千葉県成田市に設置認可
　　３月　聖徳学園多摩中央幼稚園を東京都八王子市鹿島に設置認可
　　４月　聖徳学園短期大学教員保母養成所は専修学校として聖徳学園短期大学附属教員保母養成所を設置認可
昭和５８年　３月　聖徳学園短期大学附属中学校を千葉県松戸市秋山に設置認可
　　聖徳学園短期大学附属高等学校を千葉県松戸市秋山に設置認可
　　聖徳学園短期大学附属聖徳高等学校を茨城県北相馬郡藤代町に設置認可
昭和５９年　３月　聖徳学園短期大学附属聖徳中学校を茨城県北相馬郡藤代町に設置認可
昭和６１年　３月　聖徳学園短期大学附属小学校を千葉県松戸市秋山に設置認可
平成　元年１２月　聖徳大学人文学部を千葉県松戸市岩瀬に設置認可
　　人文学部に児童学科、日本文化学科、英米文化学科を設置認可
平成　２年　４月　聖徳学園短期大学を聖徳大学短期大学部に校名変更
　　聖徳学園短期大学附属各校(園)を聖徳大学附属各校(園)に校名変更
　　聖徳学園短期大学附属教員保母養成所を聖徳大学幼児教育専門学校に校名変更
平成　９年１２月　聖徳大学大学院を設置認可
　　大学院に児童学研究科児童学専攻（修士課程)、言語文化研究科日本文化専攻（修士課程)・英米文化専攻（修士課程）を設置認可
　　人文学部児童学科、日本文化学科、英米文化学科に第３年次編入学定員を設定
平成１０年１２月　大学院に通信教育を開設認可
　　大学院（通信教育）に児童学研究科を開設認可
　　人文学部に音楽文化学科を設置認可
平成１１年　７月　人文学部に現代ビジネス学科を設置認可
　　１２月　短期大学部に介護福祉学科第一部介護福祉学科第二部を設置認可
平成１２年　５月　人文学部に生活文化学科を設置認可
　　１２月　人文学部に通信教育を開設認可
　　通信教育部人文学部に児童学科、日本文化学科、英米文化学科を開設認可
平成１３年　４月　聖徳大学家族問題相談センターを千葉県松戸市岩瀬に設置認可
　　８月　人文学部に臨床心理学科（昼間主・夜間主）を設置認可
　　１２月　聖徳大学大学院に音楽文化研究科音楽表現専攻（修士課程)・音楽教育専攻（修士課程）を設置認可
平成１４年　５月　人文学部に外国語学科を設置認可
　　１２月　大学院児童学研究科（博士後期課程）（通信教育）を開設認可
　　大学院人間栄養学研究科（博士前期・後期課程）を設置認可
平成１５年　６月　短期大学部に総合文化学科を設置（届出受理）
　　１１月　大学院に音楽文化研究科音楽専攻（博士後期課程）を設置認可
　　大学院に臨床心理学研究科（博士前期・後期課程）を設置認可
　　聖徳大学サテライトキャンパスを港区三田に設置
平成１６年　３月　聖徳大学附属浦安幼稚園を浦安市日の出に設置認可
　　７月　人文学部に社会福祉学科（昼間主・夜間主）の設置（届出受理）
　　通信教育部人文学部に社会福祉学科の設置（届出受理）
平成１７年　３月　聖徳大学生涯学習社会貢献センターが松戸市亀井に設置
　　４月　人文学部に生涯教育文化学科を設置
　　１０月　通信教育部人文学部に心理学科を設置
　　人文学部の臨床心理学科を心理学科に名称変更

	１２月	短期大学部の文学科を廃止
平成１８年	３月	短期大学部の生活文化学科を廃止 人文学部の生活文化学科を人間栄養学科に名称変更及び専攻分離廃止
	９月	短期大学部専攻科の福祉専攻を介護福祉専攻に名称変更
	１２月	人文学部の社会福祉学科（昼間主）に社会福祉コース、介護福祉コースを設定 短期大学部の介護福祉学科第一部を介護福祉学科に名称変更
平成１９年	３月	人文学部の社会福祉学科（昼間主）介護福祉コースが介護福祉養成施設に指定される
	６月	聖徳大学の人文学部児童学科を児童学部児童学科に改組 聖徳大学通信教育部の人文学部児童学科を児童学部児童学科に改組 聖徳大学の人文学部音楽文化学科を音楽学部演奏学科及び音楽総合学科に改組 人文学部の現代ビジネス学科を女性キャリア学科に名称変更
平成２０年	１０月	大学院に教職研究科（専門職学位課程：教職大学院）を設置認可
平成２１年	３月	短期大学部の介護福祉学科第二部を廃止
	７月	聖徳大学の人文学部人間栄養学科を人間栄養学部人間栄養学科に改組 附属高等学校を附属女子高等学校に校名変更 附属中学校を附属女子中学校に校名変更 附属聖徳高等学校を附属取手聖徳女子高等学校に校名変更 附属聖徳中学校を附属取手聖徳女子中学校に校名変更
平成２２年	３月	短期大学部の介護福祉学科を廃止並びに介護福祉士養成施設の指定取消
平成２３年	６月	聖徳大学の人文学部心理学科、社会福祉学科を心理・社会福祉心理学科、社会福祉学科に改組
平成２３年	９月	聖徳大学の人文学部児童学科(夜間主コース)及び人文学部音楽文化学科を廃止
平成２４年	３月	附属第三幼稚園を附属成田幼稚園に園名変更
	８月	聖徳大学の人文学部生涯文化学科、女性キャリア学科、英米文化学科、日本文化学科を文学部文学科に改組
	１０月	聖徳大学語学教育センター、並びに聖徳大学教職実践センターを設置
平成２５年	４月	聖徳大学聖徳ラーニングデザインセンターを設置
	１０月	聖徳大学看護学部看護学科を設置認可
平成２６年	３月	短期大学部の専攻科介護福祉専攻を廃止 幼児教育専門学校の教員養成専門課程の幼児教育科第２部を廃止
平成２７年	３月	聖徳大学の人文学部人間栄養学科を廃止
平成２８年	３月	聖徳大学の人文学部児童学科（昼間主コース）及び通信教育部人文学部児童学科を廃止
	５月	聖徳大学の人文学部生涯教育文化学科を廃止
平成２９年	３月	聖徳大学の人文学部女性キャリア学科を廃止
	８月	大学院看護学研究科（修士課程）を設置認可
令和　２年	３月	短期大学部専攻科保育専攻（昼間主コース）、保育専攻（夜間主コース）、通信教育部専攻科保育専攻を廃止 附属取手聖徳女子高等学校体育科を廃止
	８月	聖徳学園三田幼稚園を聖徳大学三田幼稚園へ園名変更 聖徳学園八王子中央幼稚園を聖徳大学八王子幼稚園へ園名変更 聖徳学園多摩中央幼稚園を聖徳大学多摩幼稚園へ園名変更

		１１月	聖徳大学附属女子高等学校を光英 VERITAS 高等学校へ校名変更 聖徳大学附属女子中学校を光英 VERITAS 中学校へ校名変更
令和	３年	３月	聖徳大学の人文学部を廃止
		４月	聖徳大学の児童学部児童学科を教育学部児童学科、教育学科に改組
令和	５年	３月	聖徳大学の音楽学部演奏学科、音楽総合学科を廃止 聖徳大学短期大学部専攻科服飾文化専攻を廃止
令和	７年	４月	聖徳大学幼児教育専門学校保育科第 1 部を保育科に名称変更、保育科第 2 部を学生募集停止

４．設置学校等

令和７年３月３１日現在

学校法人 東京聖徳学園
　所在地　東京都港区三田三丁目４番２８号
　理事長　川並　弘純

聖　徳　大　学
　所在地　千葉県松戸市岩瀬５５０
　学　長　川並　弘純

聖徳大学短期大学部
　所在地　千葉県松戸市岩瀬５５０
　学　長　川並　弘純

聖徳大学幼児教育専門学校
　所在地　東京都港区三田三丁目４番２８号
　校　長　川並　順

光英 VERITAS 高等学校
　所在地　千葉県松戸市秋山６００
　校　長　川並　芳純

聖徳大学附属取手聖徳女子高等学校
　所在地　茨城県取手市山王１０００
　校　長　湯澤　義文

光英 VERITAS 中学校
　所在地　千葉県松戸市秋山６００
　校　長　川並　芳純

聖徳大学附属取手聖徳女子中学校（休校中）
　所在地　茨城県取手市山王１０００

聖徳大学附属小学校
　所在地　千葉県松戸市秋山６００
　校　長　三須　吉隆

聖徳大学附属幼稚園
　所在地　千葉県松戸市岩瀬５５０
　園　長　川並　珠緒

聖徳大学附属第二幼稚園
　所在地　千葉県松戸市小金原七丁目１４番地
　園　長　川並　珠緒

聖徳大学附属成田幼稚園
　所在地　千葉県成田市中台三丁目８番地
　園　長　川並　珠緒

聖徳大学附属浦安幼稚園
　所在地　千葉県浦安市日の出五丁目４番２号
　園　長　川並　珠緒

聖徳大学三田幼稚園
　所在地　東京都港区三田三丁目４番２８号
　園　長　塩　美佐枝

聖徳大学八王子幼稚園
　所在地　東京都八王子椚田町１００３番地
　園　長　中川　奈津子

聖徳大学多摩幼稚園
　所在地　東京都八王子鹿島１番
　園　長　三枝　勢津子

５．学校・学部・学科等の学生数の状況

令和６年５月１日現在

聖徳大学

学部	学科	入学定員	入学者数	収容定員	現員数
教育学部	児童学科（昼間主コース）	325	182	977	599
	児童学科（夜間主コース）	7	5	22	14
	教育学科（昼間主コース）	80	40	241	103
	教育学科（夜間主コース）	3	1	10	2
児童学部	児童学科（昼間主コース）	－	－	423	257
	〃　（夜間主コース）	－	－	12	12
心理・福祉学部	心理学科	60	67	244	236
	社会福祉学科	80	74	330	293
文学部	文学科	110	106	437	393
人間栄養学部	人間栄養学科	98	103	585	436
看護学部	看護学科	80	100	320	327
音楽学部	音楽学科	40	25	224	96

（通信教育課程）

学部	学科	入学定員	入学者数	収容定員	現員数
教育学部	児童学科	120	15	510	84
	教育学科	80	4	340	27
児童学部	児童学科	－	－	450	378
心理・福祉学部	心理学科	100	80	1,050	1,902
	社会福祉学科	70	33	980	1,012
文学部	文学科	45	26	735	397

教職大学院

研究科	専攻	入学定員	入学者数	収容定員	現員数
教職研究科	教職実践専攻（専門職学位課程）	15	2	30	8

大学院
（修士課程・博士前期課程）

研究科	専攻	入学定員	入学者数	収容定員	現員数
児童学研究科	児童学専攻	50	3	100	9
	〃　（通信教育課程）	50	9	100	32
臨床心理学研究科	臨床心理学専攻	30	9	60	15
言語文化研究科	日本文化専攻	6	1	12	3
	英米文化専攻	6	0	12	0
人間栄養学研究科	人間栄養学専攻	10	2	20	5
看護学研究科	看護学専攻	8	3	16	7
音楽文化研究科	音楽表現専攻	5	8	10	16
	音楽教育専攻	5	1	10	5

（博士後期課程）

研究科	専攻	入学定員	入学者数	収容定員	現員数
児童学研究科	児童学専攻	5	0	15	2
	〃　（通信教育課程）	5	1	15	8
臨床心理学研究科	臨床心理学専攻	5	0	15	0
言語文化研究科	日本文化専攻	3	0	9	0
	英米文化専攻	3	0	9	0
人間栄養学研究科	人間栄養学専攻	3	0	9	1
音楽文化研究科	音楽専攻	5	3	15	7

聖徳大学短期大学部

学科・専攻	入学定員	入学者数	収容定員	現員数
保育科第一部	160	70	320	165
保育科（通信教育課程）	200	21	600	313
保育科第二部	10	12	30	28
総合文化学科	50	33	100	78

専攻科

学科・専攻	入学定員	入学者数	収容定員	現員数
医療保育専攻	5	4	5	4

附属学校

学科・専攻	入学定員	入学者数	収容定員	現員数
聖徳大学幼児教育専門学校	140	28	315	76
光英 VERITAS 高等学校	459	153	1,377	384
聖徳大学附属取手聖徳女子高等学校	70	73	210	201
光英 VERITAS 中学校	160	73	480	333
聖徳大学附属取手聖徳女子中学校	－	－	－	－
聖徳大学附属小学校	105	49	630	418
聖徳大学附属幼稚園	－	－	400	264
聖徳大学附属第二幼稚園	－	－	400	150
聖徳大学附属成田幼稚園	－	－	270	75
聖徳大学附属浦安幼稚園	－	－	300	118
聖徳大学三田幼稚園	－	－	315	298
聖徳大学八王子幼稚園	－	－	320	88
聖徳大学多摩幼稚園	－	－	400	44

６．主要な運営指標等の推移

区　　分	令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度
学生在籍者数（単位：名）					
大 学 院（通学）	91	78	68	74	78
（通信）	71	68	61	45	40
大　　学（通学）	3,211	3,173	3,222	2,948	2,768
（通信）	2,442	2,793	3,419	3,726	3,800
短期大学（通学）	462	390	334	321	275
（通信）	361	369	359	348	313
附 属 校	2,438	2,465	2,496	2,540	2,449
教職員数（単位：名）					
大学・大学院教員数	265	251	240	246	219
短期大学教員数	46	45	43	38	36
附属教員数	199	194	194	190	192
職員数	218	210	209	206	191
事業活動収入（単位：百万円）	9,805	9,801	10,658	10,511	9,591
事業活動支出（単位：百万円）	12,054	11,762	12,579	12,677	11,036
資金収入（単位：百万円）	13,352	13,080	17,016	14,204	12,262
資金支出（単位：百万円）	14,125	14,600	15,195	15,482	13,011

区　　分	令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度
事業活動収支関係財務比率（単位：％）					
①事業活動支出比率	123	120	118	121	115
②学生生徒等納付金比率	75	74	72	70	73
③人件費比率	64	63	58	58	59
④教育研究経費比率	43	42	45	44	44
⑤事業活動収支差額比率	-23	-20	-18	-21	-15
⑥補助金比率	15	15	16	15	16
⑦寄付金比率	2	1	2	3	2
貸借対照表関係財務比率（単位：％）					
⑧流動比率	136	103	148	125	149
⑨基本金比率	95	96	97	96	98
⑩負債比率	23	23	26	25	24

（注）上記指標は、次の算式により算出しております。

①　事業活動支出比率＝事業活動支出／事業活動収入

②　学生生徒等納付金比率＝学生生徒等納付金／経常収入(※)

③　人件費比率＝人件費／経常収入(※)

④　教育研究経費比率＝教育研究経費／経常収入(※)

⑤　事業活動収支差額比率＝基本金組入前当年度収支差額／事業活動収入

⑥　補助金比率＝補助金／事業活動収入

⑦　寄付金比率＝寄付金／事業活動収入

⑧　流動比率＝流動資産／流動負債

⑨　基本金比率＝基本金／基本金要組入額

⑩　負債比率＝総負債／純資産

※「経常収入」＝教育活動収入＋教育活動外収入

７．役員の概要

令和７年３月３１日現在

理事　定数 8～10 名

	氏名	当初就任年月日	常勤・非常勤の別	役員賠償責任保険契約	責任限定契約
理事長	川並 弘純	平成 18 年 6 月 1 日	常勤	○	－
常務理事	川並 芳純	平成 23 年 5 月 30 日	常勤	○	－
理事	池田 清英	昭和 59 年 3 月 12 日	非常勤	○	○
理事	石井 敬一郎	平成 28 年 4 月 1 日	非常勤	○	○
理事	河村 守康	昭和 62 年 3 月 4 日	非常勤	○	○
理事	小林 敬治	平成 12 年 4 月 2 日	非常勤	○	○
理事	武内 昌史	平成 19 年 6 月 1 日	非常勤	○	○
理事	増井 三夫	平成 24 年 2 月 8 日	常勤	○	－
理事	三須 吉隆	令和元年 6 月 1 日	常勤	○	－

監事　定数 2～3 名

	氏名	当初就任年月日	常勤・非常勤の別	役員賠償責任保険契約	責任限定契約
監事	末廣 敬邦	平成 3 年 9 月 23 日	非常勤	○	○
監事	神本 忠夫	令和 4 年 10 月 1 日	常勤	○	○
監事	山口 富彌	令和 5 年 1 月 10 日	非常勤	○	○

役員賠償責任保険契約

・被保険者　　理事、監事、評議員、設置校の校長、園長等

・補償内容　　学園又は第三者に対する損害賠償を補償。
学園教職員に対するハラスメントや不当解雇、差別行為等のほか、過労死・過労自殺に起因し、損害賠償請求がなされた場合に、法律上の損害賠償金、訴訟費用、訴訟対応費用、法人調査費用が補償される。

・保険期間　　令和６年４月１日から令和７年３月３１日まで

・保険期間中総支払限度額　３億円

責任限定契約

賠償責任の限度額は、私立学校法において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律で定める額（以下「最低責任限度額」という。）を上限にこの法人があらかじめ定めた額（年間報酬額に２を乗じた額）と、最低責任限度額とのいずれか高い額とする契約。

８．評議員の概要

令和７年３月３１日現在

評議員　定数 19～23 名

選任区分	氏名	当初就任年月日
第１号	川並　弘純	平成 5 年 4 月 2 日
	川並　芳純	平成 14 年 4 月 2 日
	川並　孝純	平成 18 年 6 月 1 日
	増井　三夫	平成 24 年 2 月 8 日
	辻　正行	平成 24 年 6 月 1 日
	三須　吉隆	平成 29 年 4 月 2 日
第２号	長江　曜子	昭和 63 年 7 月 16 日
	髙橋　博子	平成 13 年 12 月 13 日
	川並　順	平成 28 年 4 月 1 日
第３号	川並　珠緒	平成 23 年 7 月 11 日
	三枝　勢津子	令和元年 6 月 1 日
	湯澤　義文	令和 2 年 6 月 1 日
	中川　奈津子	令和 2 年 6 月 1 日
	塩　美佐枝	令和 5 年 6 月 1 日
第４号	川並　知子	昭和 37 年 7 月 1 日
	川並　妙子	昭和 37 年 7 月 1 日
	池田　清英	昭和 59 年 3 月 12 日
	河村　守康	昭和 62 年 3 月 4 日
	小林　敬治	平成 12 年 4 月 2 日
	武内　昌史	平成 20 年 6 月 1 日
	石井　敬一郎	平成 28 年 4 月 1 日
	浦田　幸利	令和 3 年 6 月 1 日
	野田　聖子	令和 4 年 10 月 1 日

９．教職員の概要

令和６年５月１日現在

設置学校等	教員	職員	合計
本　部	－	29 名	29 名
聖徳大学	219 名	103 名	322 名
聖徳大学短期大学部	36 名	24 名	60 名
聖徳大学幼児教育専門学校	13 名	4 名	17 名
光英 VERITAS 高等学校	41 名	2 名	43 名
聖徳大学附属取手聖徳女子高等学校	28 名	5 名	33 名
光英 VERITAS 中学校	23 名	3 名	26 名
聖徳大学附属取手聖徳女子中学校	0 名	0 名	0 名
聖徳大学附属小学校	25 名	3 名	28 名
聖徳大学附属幼稚園	12 名	6 名	18 名
聖徳大学附属第二幼稚園	12 名	4 名	16 名
聖徳大学附属成田幼稚園	4 名	2 名	6 名
聖徳大学附属浦安幼稚園	9 名	0 名	9 名
聖徳大学三田幼稚園	13 名	3 名	16 名
聖徳大学八王子幼稚園	7 名	2 名	9 名
聖徳大学多摩幼稚園	5 名	1 名	6 名
計	447 名	191 名	638 名

《参考》女性活躍推進計画の目標達成状況

（計画期間：令和 3 年 4 月 1 日～令和 8 年 3 月 31 日）

目標	達成状況
①　課長相当職の女性管理職を育成し、管理職に占める女性割合 30%を維持する。	令和６年５月１日現在　36.7% （123 名中 45 名が女性管理職）
②　女性職員の平均継続勤務年数の男性職員平均勤続年数に対する比率 70%達成	令和６年５月１日現在　61.8% （男性 15.7 年に対し女性 9.7 年）
③　女性職員の育児休業取得率の維持（90%以上）及び男性職員の育児休業等取得推奨のための施策の実施。	令和６年度実績 ・女性職員の育児休業取得率 100.0% （出産した職員数／育児休業取得者数 7 名／7 名） ・男性職員の育休取得者 1 名

Ⅱ．事業の概要

学校法人東京聖徳学園は、昭和８（1933）年に学園創立者の川並香順・孝子両先生によって創立されました。その建学の精神は「和」であり、全人的な教育を目指し発展を続けてきました。

社会の成熟と共に技術の進歩により、私たちを取り巻く環境は大きく変化し、ボーダーレスとバーチャルリアリティーの時代を迎えました。そして、建学の精神「和」が示す概念も外向きのベクトルを指向することが求められるようになりました。

令和５（2023）年、学校法人東京聖徳学園は創立 90 周年を迎えました。この重要な節目の年に、創立 100 周年に向けて発展することを目指して、建学の精神「和」をグローバル、ダイバーシティ、サスティナブルの視点から捉えた「聖徳学園　教育改革のための３つの起点」を定義いたしました。

聖徳学園　教育改革のための３つの起点

聖徳学園のグローバル

自己のアイデンティティを大切にしつつ、世界へ開かれた思考と行動を目指すもの

聖徳学園のダイバーシティ

「和」を基本とし、異なる価値観の受容と他者との協創を目指すリーダーシップ精神の醸成

聖徳学園のサスティナブル

社会変化に対応できるレジリエンスを重んじ成長を続ける意思と態度

この「聖徳学園　教育改革のための３つの起点」を足掛かりとして教育改革を推進するとともに、各種施策に取り組んでおります。

１．法人（学園全体）

【管理運営】

（１）学園の次期中期計画の策定

後述の「総合改革推進プロジェクトチーム」の下に設置された、「中期計画推進ＷＧ」を中心に、現行の中期計画の実施状況の振り返りを行い、成果と課題を把握するとともに、次期中期計画の策定に着手しました。

（２）学園の中期計画及び各部門の年度計画の着実な実行

学園の中期計画及び各部門の年度計画の着実な実行のため、外部コンサルも起用し、関係者間でのタイムリーな情報共有及びアクション指示伝達を円滑にするため、管理運営/学生募集を推進する主要関係者を一同に集めた定例会を開催し、進捗管理を行いました。また、教学内容も含めた各部門の計画の進捗管理のため、常任理事会の下に設置されている「総合改革推進プロジェクトチーム」が各部門長と計画の内容確認、討議を実施し、学園のビジョン達成に向けて改革を推進しました。

（３）ガバナンス改革の推進

改正私立学校法（令和７年４月１日施行）への対応も踏まえて、寄附行為変更認可申請書を令和６年 11 月８日に文部科学省に提出しました。そして、文部科学省より、令和７年１月 30 日付で「寄附行為変更認可について（通知）」を受け、認可を受けました。
また、新たなガバナンス体制の構築に向けて、令和７年３月 17 日開催の理事会において、内部統制システム整備の基本方針を決定し、関連諸規程の整備を行いました。

（４）募金の募集

本学園の財政基盤を強化し、教育研究活動を支援するため、募金の募集を行いました。これまでに、保護者、卒業生、教職員をはじめ、法人及び団体、個人の皆様から多くのご芳志を賜りました。

《令和６年度実績》

募金名	件数	金額
学園創立90周年記念募金	70件	30,735,882円
聖徳教育学術振興募金	46件	1,032,000円
聖徳大学香和会50周年記念奨学基金	1件	100,000円
合計	117件	31,867,882円

（５）「ＳＤ研修計画」の推進

教職員の能力及び資質向上のため、「ＳＤ研修計画」に基づき研修を実施し、必要な知識等の修得を図りました。また、令和３年５月に「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）」が改正され、私立大学等においても令和６年４月から障害のある人への合理的配慮の提供が義務化されたことも踏まえ、令和６年 11 月１日に「合理的配慮」をテーマとして掲げ、全学ＳＤ研修会を開催しました。

（６）学園施設の有効活用

① 「信州佐久 春日温泉 自然体感リゾート かすがの森」の活用

「信州佐久 春日温泉 自然体感リゾート かすがの森」は大学及び短期大学のＦＣ（Freshmen Camp 初年次教育研修）、附属学校の校外学習等の場として活用し、さらなる有効活用と良好な維持管理ができるよう取り組みを行いました。令和６年度の利用者数は延べ 11,902 人でした。

② 「山中湖ガーデンヴィラ」の活用

聖徳学園山中湖荘「山中湖ガーデンヴィラ」を令和６年７月 13 日～令和６年９月１日の期間限定で運営し、施設の有効活用と維持管理に取り組みました。令和６年度の営業期間における利用者数は延べ 717 人でした。

③ 遊休施設の活用

現状、使用（活用）していない学園施設について、今後の事業展開を見据えて、活用方法の検討を行いました。

（７）経費の削減

経費削減を推進するため、部門・目的別予算配分額の妥当性の見直しを行い、当該部門と予算編成の精度を高め、収支バランスの取れた予算を編成しました。また、予算ガバナンス強化による執行管理に取り組みました。これらにより、経常支出は前年より大幅に削減されました。

（８）エネルギー使用量の削減

省エネルギー推進委員会が中心となり、教職員や学生への啓蒙活動を行うとともに、学園全ての施設において省エネルギーを推進し、主要エネルギーである電気使用量の削減とＳＤＧｓ達成に向けて取り組みました。その結果、電気使用量は前年比 5.2%の削減となりました。

（９）ガバナンス・コードの活用

自主的な行動規範であるガバナンス・コードを活用し、ガバナンス体制のチェック及び情報の公開を行いました。また、私立学校法の改正に伴い、令和７年４月１日からは日本私立短期大学協会が定める「私立大学・短期大学版　ガバナンス・コード【第２版】」を採用し、ガバナンス体制のチェックを行っていきます。

２．聖徳大学・聖徳大学短期大学部

【教育研究】

《教育の質の向上》

（１）「保育の聖徳」のブランド価値の再構築と再訴求・浸透

学園創立以来、伝統・実績を築き上げてきた、本学の支柱とも言える幼児教育・幼児教育者育成における聖徳の強みについて検討を進め、「保育の聖徳」のブランド価値の再構築と再訴求・浸透を図りました。

（２）「Business Field Linkage」副専攻化と最先端の教育推進

令和５年度より、Business Field Linkage の学びを副専攻プログラムとして本格始動しています。20 単位を修得すると修了証書が授与され、就職活動においても履歴書に副専攻として記入することで専門分野以外でも学んできたことをアピールできます。令和６年度は年間延べ 25 科目が開講され、延べ 821 名の学生が履修しました。引き続き本プログラムを全学で推進し、以下の到達目標の達成を目指します。

① 変革する時代において先見的な視点と活用できるスキルを身に付け、自分のキャリアを切り拓く力を身に付ける
② 国際的な教養を身に付け、世界や日本の諸問題に興味を持ち自分なりの考えが言える
③ 価値観の多様性を受入れチームとして成果を出せるリーダーシップを身につける

（３）教学マネジメントの推進による学習者目線の改善・改革（内部質保証）

本学独自の自己点検・評価基準に基づく各学科の点検・評価により、意識調査等の分析結果や学生からのヒアリング結果から学習者のニーズや期待を丁寧に汲み取り、そこから得られる課題に正面から向き合い、学習者目線の改善・改革を推進しました。

（４）学習成果の可視化と明確化に向けた取り組み

各学科において各種ルーブリックや調査等を通じ、卒業認定・学位授与の方針に定める学習成果の獲得状況を学生自身が理解・認識し、自らの言葉で言語化することに取り組みました。また多くの学科で学生の学習成果の獲得状況を客観的数値とともに、ホームページに掲載するなど社会への公表を行いました。

（５）国立ハノイ教育大学との連携事業の計画

令和５年度に学術交流及び連携に関する協定を締結した、ベトナム・ハノイ市の国立ハノイ教育大学（Hanoi National University of Education）より３名の先生（傘下の幼稚園園長を含む）を受け入れ、６月 27 日（木）から７月 20 日（土）まで幼児教育に関する短期研修プログラムを実施しました。

（６）各学部・学科の特色ある学びの推進

各学部・学科では、次のとおり専門性を活かした特色ある学びを推進しました。

教育学部 児童学科

現代社会の課題に対応する新しい学びへの移行準備

令和６年度より児童学の５つの分野（保育・教育、児童文化、心理、福祉、健康）を体験的に学ぶ ICS 科目がスタートしました。また、２年次からの自分の興味関心のある分野を選んで学ぶことができるプログラム選択型専門教育への移行準備を進めました。

教育学部 教育学科

「教員基礎コース」設置校との連携強化

「教員基礎コース」を設置する県立高等学校との連携強化に取り組みました。７月 17 日（水）に県立我孫子高等学校の教員基礎コースに所属する生徒を迎え、学生とともに大学の授業を体験していただくとともに、学生との交流を実施しました。

心理・福祉学部 心理学科

日本を代表する「心理学のフィールド学習」の推進

Business Field Linkage による実践的学びに、社会人基礎力を育成する「フィールド学習」と総合大学ならではの学際的学びを活かした Field Linkage を加え、ゼミナール・卒業研究を通し大学院進学へと繋げました。その結果、令和６年度卒業生は５名が大学院に進学しました。

心理・福祉学部 社会福祉学科

企業との連携による介護福祉士養成事業

介護技術の最先端を行くＳＯＭＰＯケア株式会社との連携が実現しました。令和６年度は同社の Future Care Lab in Japan での学外授業の実施や、同社の運営する介護付き有料老人ホームの見学などを行いました。

文学部 文学科

新コース「国際文化コミュニケーションコース」での新しい学び

令和６年度より「国際文化コミュニケーションコース」を開設しました。世界・国際社会と日本を「文化」という視点から幅広く学び、国際教養、国際的な英語コミュニ

ケーション力、多彩な国際経験・留学制度によって国際的な課題に取り組む力を育成しています。

人間栄養学部 人間栄養学科

管理栄養士資格取得後のキャリアパスの明確化と学習プランニングの確立

令和５年度に創設した「医療・栄養」、「食品ビジネス・開発」、「栄養教諭・教職」、「健康・福祉」、「スポーツ栄養」、「総合（研究・社会貢献）」の６領域に沿った教育を行い、管理栄養士資格取得後のキャリアパスを明確化することにより、学生の学びと国家試験合格へのモチベーション向上に取り組みました。また令和７年度からこの６領域をさらにわかりやすく示すため３コース制への移行準備を進めました。

看護学部 看護学科

『先駆的』シミュレーション教育の推進

質の高い看護師の育成を目指し、最先端の高機能シミュレーターによるシミュレーション教育の強化（シナリオ体系化、他職種連携）とその成果の外部への発信（研究・広報）に加え、４学年課題探求学習セミナーやナーシングスキル（オンラインツール）も活用し「主体的な学びの素地作り」の強化に取り組みました。

音楽学部 音楽学科

時代のニーズを捉えたＤＴＭマーケットへの進出

ＤＴＭ（Desk Top Music　パソコンを使用して音楽制作や編集を行う事の総称）に真摯に取り組む若者に対し Web 上に発表の場を提供し、音楽文化のさらなる活性化に寄与することを目的として「U18 DTM 甲子園 2024」を開催し、20 作品の応募をいただきました。厳正な審査の結果上位３名を金賞、銀賞、銅賞としてそれぞれ賞状と副賞をお贈りしました。

また、留学生入学のため、ＳＮＳの情報発信、日本語学校との連携を推進しました。

短期大学部 保育科

学習成果の可視化と体系化による学生の自己肯定感向上と学習満足度の向上

令和５年度より開始されている新科目「保育表現創造演習」は、ピアノや歌、造形や身体表現等の個別の基礎的技能を、総合的な表現の指導力として統合し、さらには創造する過程を体験的に学び実践力へと高める成果へとつながっています。これらの学習成果を学生の成長実感と共に体系的に可視化した「学習成果の獲得状況」として冊子に纏め個々の学生にフィードバックし、学生の自己肯定感向上と学習満足度の向上につなげています。

短期大学部 総合文化学科

専門教育×教養教育×BFL による短大と大学の枠を超えた新しい学びの創出

専門教育科目（即戦力となる力を実践的に修得）×教養科目（多様な教養科目で基盤となる人間力を高める）×Business Field Linkage（自分の将来を見据えた学びを主体

的・計画的にデザインできる５つの副専攻プログラム）による学びの再構築により、短大と大学の枠を超えた新しい学びと専門をより深める多様かつ実践的な学び作りに取り組みました。

大学 通信教育

社会福祉士・精神保健福祉士国家試験の合格率日本トップクラスの継続

教員による手厚いサポートや、国家試験対策講座や模擬試験の実施などを通じて、社会福祉士・精神保健福祉士国家試験の合格率日本トップクラスを継続しました。令和５年度・令和６年度実績は以下のとおりです。

	令和５年度	令和６年度
社会福祉士	68.8%（２位）	78.0%（３位）
精神保健福祉士	66.7%（２位）	78.0%（３位）

（ ）内は、通信制・新卒・既卒の順位

オンラインによる受講体制の拡充と整備・充実

① 全てのオンラインスクーリングでライブ配信を実施

オンラインスクーリングの全ての授業でライブ配信を取り入れました。これによって学生と教員、学生同士のリアルタイムでのコミュニケーションが可能となり、対面実施による授業と同等の授業を提供しています。

② オンラインレポート提出システムの運用開始

全レポートのオンライン提出システムの運用を開始します。これまで論述のみに対応したオンライン提出システムから、穴埋め・記号選択等も含めたあらゆるレポート課題の出題形式に対応できるシステムの準備を進め、令和７年度より導入予定です。これにより学生の利便性を高め、満足度向上に繋がります。既に運用を開始している科目終了試験のオンラインシステムは完成しており、本システムが加わることで、場所を選ばない学習環境の実現がさらに広がります。

（７）学生支援の質の向上

保護者への Web ポータルシステムの拡張によるサービス向上

Web ポータルシステム（Active Academy Advance）の改修・更新に伴い、保護者ポータルサイトを新設しました。これにより保護者が本学からのお知らせ、学生の成績表や授業の出欠情報などを保護者サイト上で確認できるようになり情報提供・共有体制が強化されました。また、保護者サイトから授業料等校納金の振込依頼書をダウンロードできるようになり、従来の金融機関窓口からの振込に加え、ATM やネットバンキングからの振込にも対応し、保護者の利便性向上に取り組みました。

（８）教育・研究の向上

各教員の研究成果である著書、学術論文等の研究業績等の発表を推奨し、教育・研究の充実を図り、より質の高い教育の実現と競争的研究資金等の獲得を目指しました。その結果、令和７年度科学研究費補助助成事業（科研費）に新規 25 件応募し、４件採択されました。

（９）キャリア支援の充実

① ４年連続全国女子大学１位の実就職率の維持・向上

個々の学生の状況に応じたきめ細かな就職指導を行うための個別プログラムを整備し、早期の就職活動への取り組みを推進するとともに、既存のプログラムについてもレベルアップを図り、キャリア支援を更に充実させています。その結果、令和６年度の実就職率は 97.6%となり、過去最高を達成しました。これまでの全国女性大学実就職率（卒業生 500 名以上）の統計史上初の快挙になります。

②「キャリアの聖徳」の浸透

他大学を圧倒的に凌駕する実就職率の継続に加え、企業就職者における上場企業就職率も 40.3%を達成（令和５年度実績 36.8%）しました。くるみん・えるぼし認定企業（女性キャリア推進企業）への就職者も 112 名（令和５年度実績 98 名）とするなど、「就職の質」を更に高め、すべてのステークホルダーに対し「キャリアの聖徳」の浸透を図りました。

（１０）中途退学者予防策の推進

初年次退学率３％以内、卒業までの退学率８％以内の目標に掲げ、各種アンケート調査や学生への直接のヒアリング、アセスメント結果、自己点検・評価等の結果に基づき、学科の教員が一丸となった早期対応を徹底するとともに、事務局学生部各部門による横断的な退学防止に向けた取り組みを推進しました。その結果、大学の卒業までの退学率は目標を達成したものの、残念ながら初年次退学率及び短期大学の卒業までの退学率は目標を下回る結果となりました。引き続き退学に繋がる要因の分析を進め、退学予防に取り組みます。

【地域・社会貢献】

（１）地域の活性化と人材の養成

① 高校生の体験発表会の開催

本学では地域貢献・高大連携活動の一環として、高校生が行っている地域貢献活動、授業・部活動等の教育活動、起業経験や国際交流などを通して得られた探究的な学びの成果を広く社会に発信する「高校生の体験発表会」を継続的に実施しています。第９回となる今年度は、千葉県教育委員会・千葉県高等学校長協会・千葉県特別支援学校長会・松戸市・松戸市教育委員会・松戸商工会議所の後援をいただき、「ステージ発表型」は令和６年 12 月 14 日（土）に、「オンライン発表型」は令和７年２月１日（土）に開催しました。ステージ発表型には高等学校 16 校 20 団体、オンライン発表型には４校７団体と多くの高等学校よりご参加いただきました。

② 高等学校、地方自治体、企業等との連携

地域コミュニティづくりや地域社会の発展を目指し、高等学校、地方自治体、企業等と連携し地域貢献活動に取り組みました。一例として、令和６年度は、総合文化学科及び人間栄養学科の学生が、株式会社アトレが運営する「アトレ松戸」、東和フードサービス株式会社が運営する「Cheese Egg Garden」と連携し、松戸限定コラボメニュー

の開発、販売を行いました。また、保育科及び総合文化学科の学生が、水戸藩最後の藩主である徳川昭武の別邸であり国指定重要文化財の戸定邸に親しみを持ってもらうために、地域の親子を対象としたプログラム「戸定邸で遊ぼう！～あきたけさんからの招待状～」を開催しました。

（２）生涯学習による社会貢献・地域振興

生涯学習事業として、地域社会の皆様に学びの場と機会を提供するための公開講座、社会人向けの資格取得講習・現職者向けの免許取得講座を開講しました。前者は、どなたでも受講可能な「聖徳大学オープン・アカデミー（ＳＯＡ）公開講座」で、開設 33 年目となる令和６年度は、延べ 516 講座を開講、延べ受講者数は 6,365 名でした。地方自治体との地域連携講座は好評で、我孫子市や流山市と協力講座を開講しています。後者は、司書・司書補講習（受講者数 119 名）、免許法認定公開講座（延べ 473 名）で、全国より受講がありました。生涯学習事業の発展に取り組むと同時に、地域社会やスキルアップ希望者に必要とされる存在として、その責務を果たしていきます。

（３）子育て支援

１）「おやこ DE 広場　にこにこキッズ」

「おやこ DE 広場　にこにこキッズ」は、聖徳大学児童学研究所が松戸市より委託を受け運営している施設です。市内に居住する０歳から３歳の乳幼児とその保護者を対象に、遊びや交流、友達づくりの場として、また専門の教職員に気軽に子育て相談ができる場として、市民の子育てを支援しました。

開設日数	新規登録組数	延べ利用組数	延べ利用者数		
			計	大人	子ども
189 日	206 組	1,344 組	2,887 人	1,406 人	1,481 人

２）松戸子育てカレッジ

子育て広場「おやこで“ゆるりん”」

子育て広場「おやこで“ゆるりん”」は、地域の乳幼児をもつ親とその子どもが集い、安心して過ごせる親子交流の場です。

また、児童学科、保育科の学生のフィードバック先として、大学内に親子とかかわりを持てる子育て支援実践の場としての役割もあります。

開館日数	利用者数 （０～２歳児）
42 日	127 人

（４）「知」の還元

① 教育委員会との連携

千葉県教育委員会との共催で特別支援フォーラム 2024 を「学校間等の切れ目ない支援の継続を目指して　～支援をつなぐ：何をつなぎ、どうつなぐか～」をテーマに令和６年 10 月 26 日（土）に開催し、93 名の参加をいただきました。

また、公開講座として松戸市教育委員会、我孫子市教育委員会、流山市教育委員会と連携し、地域の方々に大学の持つ「知」を還元する講座や、自治体から学芸員等の講師を招き地域の歴史や魅力を学ぶ講座を開催しました。

② 所蔵する貴重資料の公開

聖徳博物館、利根山光人記念ギャラリー、企画展示ギャラリー等を会場として、聖徳大学が所蔵する貴重資料を公開しています。

（聖徳博物館）

◆　聖徳大学収蔵名品展「源氏と狭衣王朝文学の世界」
　　会期：令和６年４月２日（火）～令和６年 11 月 30 日（土）

◆　聖徳大学収蔵名品展「和のうた 和のこころ-美しき“かな”の世界」
　　会期：令和７年３月３日（月）～令和７年５月 10 日（土）

（利根山光人記念ギャラリー）

◆　特別展覧会 没後 30 年「太陽の画家利根山光人 ドン・キホーテを描く」
　　会期：令和６年４月２日（月）～ 令和６年 11 月 30 日（土）

◆　聖徳大学収蔵名品展「ディズニー・セル画」【リトル・マーメイド】
　　会期：令和７年１月８日（水）～令和７年４月 25 日（金）

（企画展示ギャラリー）

◆　聖徳大学収蔵名品展「源氏と狭衣王朝文学の世界」

会期：令和６年４月２日（火）～令和６年 11 月 30 日（土）

◆　聖徳大学収蔵名品展「アンデルセン作品と人生」

会期：令和７年１月 15 日（水）～令和７年４月 25 日（金）

③ 講演会、シンポジウム等の開催

研究所等の主催による講演会、シンポジウム等を開催し、広く社会に最新の情報や研究成果の還元を行いました。以下は研究所主催による令和６年度の講演会、シンポジウム、課題別研究会の実績です。

研究所	種別	タイトル	日時	参加者数
児童学研究所	講演会	「医療的ケア児」が子どもとして、人として地域で暮らすこととは	6/15（土）	88 名
	講演会	グローバルマインド×カウンセリングマインドで子ども達を育てよう	11/30（土）	81 名
	研究会	令和６年度　児童学研究会	3/15（土）	40 名
言語文化研究所	シンポジウム	「各言語圏別に見た“巷間に伝わる伝承とその由来”」	3/1（土）	5 名
	公開講演会	『源氏物語』の語法とその読解	3/29（土）	68 名
生涯学習研究所	企画	アートパーク 17	7/7（日）	1,197 名
	企画	みんな集まれ！いわぽん夏祭り	7/21（日）	48 名
	企画	常盤平　ぽかぽかひろば 2024	10/26（土）	25 名
	企画	みんなあつまれ！せいとくの森～聖徳の自然で遊ぼう～	12/8（日）	17 名
	課題別研究会	子どもとママが笑顔になる居場所づくり～一般社団法人コパンの取り組みに学ぶ～	2/8（土）	17 名

	課題別研究会	感じる心　つながる体験～からだを通じて学ぶ感情リテラシー～	2/21（金）	17 名
看護学研究所	シンポジウム	「医療の場における倫理的ジレンマーさまざまな選択をめぐる葛藤とその支援ー」	1/22（水）	57 名
心理教育相談所	講演会	教員のための心理学講座　教員のメンタルヘルスについて考えるー産業組織心理学の立場からー	8/10（土）	50 名
	研修会	太田ステージ評価に基づく療育の理論と実践～認知発達治療の紹介～	12/4（土）	22 名
	講演会	認知症高齢者に優しくなれる心理学	3/15（土）	28 名

【管理運営】

《学生募集》

（１）オープンキャンパスへの来場促進

来場型オープンキャンパスだけではなく、ホームページ上に WEB オープンキャンパスのページを開設し、受験生の両方のニーズに対応しています。また、大学サイトの他に、受験生目線の受験生応援サイト、各学科サイトを運用するとともに、ダイレクトメールも活用しながらオープンキャンパスへの来場を促進しました。

オープンキャンパスにおいては「Let’s Buddy」を新コンセプトとして策定し、本学の強みである伴走力と入学後の期待を醸成するプログラム構成へ刷新しました。

（２）ホームページの充実

「Change,Challenge,Create」をスローガンに、本学ならではの価値の明示と言語化などを目指しホームページのリニューアルを行いました。新たなブランドイメージを見せるとともに、オープンキャンパスの情報や更新情報などをわかりやすく伝えています。また、ブランドとしての考え方を伝えるため、ブランドページも新たに展開しました。

《基盤整備》

（３）大学設置基準改正への対応

大学設置基準改正に伴う基幹教員制度への移行準備を進めました。

（４）校舎耐震化率の向上

将来発生が予想されている首都直下型地震や南海トラフ地震等の災害から、学生・教職員等の生命や財産を守るため、耐震化完了計画を策定し、耐震化率の向上に取り組んでいます。令和６年度の耐震化率は計画通り 84.9%から 89.4%に向上しました。今後も計

画の確実な履行に努めます。

（耐震化完了計画）

令和６年度	令和７年度	令和８年度
89.4%	93.6%	100%

（５）高等教育の修学支援新制度への対応

学生の学びを支援するため、令和２年度から施行された「大学等における修学の支援に関する法律」に基づく、「高等教育の修学支援新制度」に相当する支援を行いました。

（６）「ちばＳＤＧｓパートナー登録制度」への参画

本学の「グローバル」、「ダイバーシティ」、「サスティナブル」の理念達成の一環として令和４年３月より参画していた「ちばＳＤＧｓパートナー登録制度」の登録期間が令和７年３月で終了を迎えるため、登録の更新申請を行いました。引き続き本学はＳＤＧｓ達成に繋がる活動を推進してまいります。

【環境配慮】

（１）エネルギー使用量の削減

省エネルギー推進委員会が中心となり、教職員や学生への啓蒙活動を行うとともに、長期休暇時の節電（稼働エレベーターの制限、使用教室の集中化）など省エネルギーを推進し、主要エネルギーである電気使用量の削減とＳＤＧｓの達成に取り組みました。

（２）ペーパーレス化の推進

従来紙媒体の冊子を作成していた学生便覧、教育課程などを電子化したり、学内会議において、資料を Microsoft Teams を活用し共有したりするなどして学内のペーパーレス化を推進しました。今後も学内のペーパーレス化を推進し、ＳＤＧｓの達成に貢献します。

３．聖徳大学幼児教育専門学校

【教育研究】

《教育の質の向上》

（１）保育体験プログラムの実施

１年生は 18 回の授業と実践を展開しました。幼稚園の保育室の環境の見学や預かり保育の実態を見学し、６月中旬には幼児と直接関わりました。幼児の遊びの実態を実感したり、関わりの課題を話し合ったりしたことで、次の関わりへの意欲をもつことができました。後期には、運動会のリハーサルや運動会に参加して行事の運営を学んだり、文化祭では、乳幼児に人形劇を見せたり遊びコーナーを作って幼児と関わったりしました。さらに、幼稚園との合同避難訓練に参加し、幼児との関わりを深めました。幼児教育実習Ｉの前に十分幼児と関わり、幼稚園現場で、教員の幼児との関わる姿を見たりしたことで、「安心して実習を受けられた」という感想があり、実習後の１年生のアンケートで「保育実践プログラム」の満足度は 100％でした。

２年生は、本年度から、入園間もない３歳児のクラスに行って、保育者がどのように幼児を受け入れ関係を作っていくかを観察したり、自分たちも関わったりしました。次年度の就職をした時の見通しをもつことができました。さらに、文化祭では、幼稚園の教員と一緒に幼稚園の出し物の準備や運営を手伝い、保育者と話をしっかり行なうことができました。２年生の満足度は 90％でした。この保育実践プログラムに参加することで、「この授業で、保育者になるというモチベーションが高まった」など学生から好評を得られました。保育者としての意識向上と実践力向上に効果を上げています。

今後も対応力、応用力、協働性が育ち、実践力をもつ学生を育成して、教育の質の向上をさらに目指していきます。

園見学前の話し合い

幼児たちとの関わり

振り返りの様子

（２）学生の学びの可視化促進

実習における自己評価ルーブリックを使用することで、個々の学生の成長に変化がみられました。実習ごとに振り返りと新たな課題と目標を記入することで、「幼児との関わり」については、実習を重ねる都度に、単なる関わりではなく、「クラス全員と関われるようになった」「自分から話し掛けてこない幼児とも関われるようになった」「障害者への偏見がなくなった」など、より深い関わりを求め、その実現ができる姿が見られ、実習での自己の成長と課題を自覚することができていました。

（３）授業アンケート中間期調査の改善

期末調査の他に行っている中間期調査は、前期、後期に Forms を使用してオンラインで行うことで回収率を上げるとともに、学生の意見を書く場を設けているため、多くの感想や意見を回収することができました。結果の詳細については、教員会で共有するとともに、兼任教員にも概要を伝達し、改善できるところは即座に改善し、各学期残りの授業に反映するようにしてきました。前期、後期に中間期調査を行うことで、授業の充実に向けて教員の意識が向上し、授業改善が図られています。

（４）教育の質を高める研修の活性化

授業アンケート中間期調査を教員会で話し合うことで、活発な教員会の意見交換を行い、授業の充実に向けての改善事項が共有でき、授業改善を行うことができました。

FD 活動として前期は、授業力向上のため授業の相互参観を行い、授業の改善を図りました。

夏期休業中の教員研修会では、「よりよい授業方法の共有～探究活動等を中心に～」とし、各教員が取り組んでいることや取り組めそうな方法を提案し、互いに共有することで、後期の授業に役立てていくようにしました。また、授業で活用している Google Classroom の効果的な活用方法について講師を招聘し、研修会を実施し、後期の授業に活かすようにしました。

後期のＦＤ活動では、各教員が公開する授業の Google Classroom に全教員を招待し、Google Classroom を活用した授業を参観できるようにしました。ディスカッションの活用、確認テスト、資料の配信、ストリームの活用、振り返り、欠席者の補講及び課題提出等、多くの活用方法を知り、次年度の授業の改善に生かしていくようにしています。

（５）会議の効率化

学校運営における連携・協力体制を強化するために、専任教員会を毎週木曜日に開催しています。会の運営を効率化するため、専任教員は各種部会に所属し、各種部会は部会開催日を月 1 回決め、教員会に提案する検討項目の明確化を図り、提案するようにしました。また、部会間の連携も図り、会議の効率化につながるようにしました。

各部会の会議資料等を Microsoft Teams で配信し、会議内容の共有を図ることで会議の効率化にもつながっています。

《就職の向上》

（６）就職サポート体制の再編成

１部生は１年次、２部生は２年次よりキャリア教育を開始し、より早い時期から卒業後の進路を意識できるよう就職（進学）ガイダンス等を実施しました。令和６年度よりＥＮＭＡＰを用いて進路希望調査、見学・受験など各種報告をオンラインで集約できるようになり、随時個別面談を通して学生一人ひとりのニーズに合わせた就職活動支援を行いました。

公務員試験対策も全教員で分担し、論文指導、面接指導の練習など個別に対応しました。その結果、９名が公立保育士に合格しました。

【地域・社会貢献】

（１）行政、地域との関係強化

幼児教育の養成校として、団体見学として高校生を本校に招き、幼児教育・保育の道を志す重要性を伝え、幼稚園見学を交えながら保育者という職業をより一層理解してもらう機会を提供しました。

高等学校へのガイダンスや体験授業などにも積極的に参加をすることで、募集活動と併せて幼児教育の養成校としての支援を行いました。

来年度は近隣の三田図書館と連携して学生の図書館見学など地域との関係強化に務めます。

【管理運営】

《学生募集》

（１）競合校との差別化を明示できる学校へ

オープンキャンパス、高校訪問、進路ガイダンスを主軸に据え、入学者確保に向け教職員が一丸となり、本校の特色をアピールしました。新校舎に合わせてパンフレットや学校説明スライドを一新し、三田幼稚園と連携できるからこそ実現した「保育実践プログラム」を強調して広く紹介しました。令和６年度は、例年行われる保育専門学校フェアに加え、聖徳大学・短大と合同で「保育の聖徳フェスタ」も本校を会場として開催されました。令和７年度入学生からはカリキュラムの見直しにより保育総合コース（２年)、保育士コース（２年)、保育アフタヌーンコース（長期履修・３年）が設置されました。それに伴い授業料が減額され、保育検定減免制度が新設と合わせて学費負担が大幅に軽減しました。また、学生が医療保育領域、特別支援保育領域、保育表現領域、児童文化領域の４つの分野から選択できる制度を導入することで学生の得意や興味を活かせるカリキュラムに変更しました。

《基盤整備》

（２）業務削減にむけた効率化

新校舎の運用に合わせ業務を改めて洗い出し、重複作業の削除、効率化を意識できるよう転換を図り教職員協力し合い業務削減に努めました。

教員会資料を Microsoft Teams で共有することで紙の削減を図りました。また、Teams

を使用することで、情報共有が頻繁になり、教職員間の共有を遅延なく進めることができました。

【環境配慮】

（１）環境を意識した教育・危機管理ができる人材の育成

令和６年９月２日（月）に「多様化、複雑化する社会情勢の中で、学生自身が主体的に安全・安心を確保していくための知識と危機管理の意識を育成する」を目的とした危機管理講習日として三田警察署防犯講習会、東京都消費生活センター（消費者教育）、東京税理士会（租税教室）を実施しました。

避難訓練は、新入生・在校生オリエンテーション（地震想定）、危機管理講習日（地震・大津波想定）、三田幼稚園合同防災訓練（地震・大津波想定）、１月授業最終日（火災想定）とあらゆる状況を想定して避難訓練を実施しました。

日々の清掃は、各クラスの日直を中心に学生自身で声掛けを行うとともに、共用部分は教員も分担して定期的に環境の整備や学生への声掛けを実施しました。

合同防災訓練の様子

４．光英 VERITAS 中学校・高等学校

【教育研究】

《教育の質の向上》

（１）「探究的な学び」を柱にした学習による 21 世紀型スキルを身につけた生徒の育成

学びの核となる「探究科」（全校履修科目）と「探究型授業」によって「答えを求める学びから問いを持つ学びへ」と学びの質の転換を加速させ、生徒が主体的に学び自らの力で新しい知識を創造する 21 世紀型スキルを獲得できるよう取り組みました。高校２年生の「探究科」での研究成果が、全国探究コンテスト 2024（ベネッセ主催、困りごと解決部門）において入賞（学校として３年連続、全国 1,600 組応募の中で 10 組）をしました。

（２）英語・国際理解教育の充実による多様な価値観と豊かな表現力を持つ生徒の育成

小笠原流礼法の学びを軸とする日本文化理解と英語４技能および総合的な言語運用能力の獲得によって、グローバルな視野と多様な価値観を持ち自分の考えを自分らしく豊かに表現できる生徒の育成に努めました。

英語・グローバル教育では、英語の授業と校内外の行事（校内英語劇、海外語学研修、修学旅行等）を密接に連携させ相乗的に総合的な英語力の向上を図りました。オーストラリアのモルディアロックカレッジ、中国の北京第 12 中学と姉妹校の協定を締結（９月、10 月）したほか、早稲田大学異文化交流センターとの連携（様々な国（11 か国）からの留学生との交流等）、万華中学（台湾）とのペンパル交流等により、ユネスコスクール校（２月に正式承認）として学びを地球規模に広げる取り組みを実践しました。

姉妹校 AUS モルディアロックカレッジが文化祭に来校（９月）

北京第12中学との北京での姉妹校調印式（10 月）

（３）理数教育の充実による理数の知識・技能を活用できる未来の科学者の育成

実験データを活用することで仮説を検証し研究論文を執筆できる「未来の科学者」を育成していきます。そのために課題解決のプロセスを重視した探究型の理数学習に取り組み、知識・技能を着実に定着させるとともに思考力・判断力・表現力の養成に努めました。放課後には、全校生徒が参加できる科学実験をはじめとする理数体験プログラム「だれでもサイエンス」を開催し理数教育の拡大と充実を図りました。

連携協定を締結している東京理科大学からは、校内の学校評価委員会（６月、３月）において、生徒に必要とされる資質・能力について等の様々なアドバイスをもらいました。また高校生の理科大研究室見学を実施（８月）し、理大祭（文化祭、11 月）には、本校科学部の生徒が実験発表ブースを出展しました。

（４）ＩＣＴ活用によるアクティブ・ラーニングでの効果的・効率的な学びの促進

タブレット（iPad）を始めとする ICT 機器の活用を効果的に学習に取り入れ、21 世紀型スキルの獲得を促進できるよう取り組みました。その活用では、様々な学習アプリにより一人ひとりに最適な学びを提供し、オンラインで学校外の人たちとつながることを含めた協働学習により、ダイバーシティを獲得しコミュニケーションスキル（対話力）を高められるよう努めました。小笠原流礼法を基盤とする「ひとづくり」を大切にしたテクノロジー利用を心がけ、他者への思いやりを持ちながら ICT 活用なしでは実現できない創造的な表現力を育成できるよう、校内外に発表する機会（校内探究研究発表会（９月、３月）、聖徳大学主催高校生の体験発表会（11 月）等）を積極的に創出しました。

《進学の向上》

（５）探究を生かした質の高い進路実現

探究的な学びにより獲得される主体性やチャレンジ力を生かして、先を見据え自ら高みを目指し進路実現のため継続的に努力できる生徒の育成に取り組みました。進路マップや進路ルーブリックによる目標の可視化によって生徒自身が見通しを立てて進路実現のために学びやすくし、デジタルポートフォリオ（活動成果等を蓄積する電子ファイル）に諸活動の成果を蓄積しふりかえり活動を行うことで自己省察力を高め、大学で学ぶ意欲を進学の動機とする良質な進路実現のための指導に努めました。探究研究を生かし海外大学（ミネソタ大学ツインシティーズ校、世界大学ランキング 87 位）へも進学しました。

（６）大学入試に対応する総合的な取り組み

これからの入試で求められる学力の３要素を獲得するため探究的な学びを軸とした教育計画を整備するとともに、多様な入試に対応する進路指導についての継続的な研究と授業の質向上に資する大学入試問題分析を含む教員研修の強化を図りました。

放課後に毎日開設する自習室（学生チューターによる学習・進路指導サポートを主とする学びのシステム）とスタディサプリ（個別学習アプリ）および校内で実施する全国模試の連携強化で、主体的な学習態度の育成と具体的な成績伸長を図り、生徒が確かな学力で高みを目指し良質な進路実現ができるよう総合的な取り組みを実践しました。さらに高校生対象に校内予備校（予備校有名講師の出張講座）を９月から導入しました。

【地域・社会貢献】

（１）地域における教育的価値の向上

教育活動で地域に貢献するとともに光英 VERITAS 中高の教育的価値を高める取り組みを実施しました。

① 光英 VERITAS 中高主催のコンテスト等開催

地域の中学生対象の英語コンテストを 10 月に開催しました。松戸市、船橋市、柏市、流山市から 16 校 32 名の生徒が参加しました。

② 光英 VERITAS 中高主催の教育研修会開催

地域（松戸市、船橋市、市川市、柏市）の小中学校教員対象の、教育研修会を開催（11

月、秋山仁（数学者・東京理科大栄誉教授）先生の講演会を実施）しました。

（２）地域・社会貢献

地域の活性化および社会に対する貢献ができるよう、教育活動および生徒活動を実施しました。

① 地域行事への積極参加と地域貢献

地域に貢献し地域から親しまれる学校づくりを目指し、全校生徒で学校周辺地域の環境ボランティア（清掃活動）に取り組みました（４月、９月）。また、松戸高校生講座（８月）、松戸まつりのオープニングセレモニー(10 月)等の地域行事に参加しました。今後も地域に貢献し地域から親しまれる学校づくりに取り組んでいきます。

② 企業との連携による社会貢献

生徒会組織の各種委員会が、SDGs に貢献する企業（ファーストリテイリング、アイシティ等）と連携した活動を行いました。自然環境の保全、途上国に対する支援、健康と福祉の増進等に向けての取り組みを通して、生徒の倫理観と社会貢献に対する意識を高め、「人・社会・自然に貢献する自覚と実践力のある次世代リーダー」を育成する学校として、企業と連携し実際の社会貢献活動を実践しました。

【管理運営】

《生徒募集》

（１）教育活動と募集活動を一体化させた募集活動の徹底

学校説明会やオープンスクール等を学事計画（年間教育計画）に組み込んで「生徒の成長の姿」、「生徒の学習成果」を受験希望者に対する訴求力とできるようにし、教育活動と募集活動を一体化させ、教育の質を継続的に高めることで入学生徒をより増加させるよう取り組みました。受験生データの分析から入試制度（しくみ、実施方法、日程等）を構築するとともに、重点募集地域からの目標入学生徒数を明確にする等の入試・募集活動を行い、光英 VERITAS 中高の募集定員充足に努めました。

（２）ホームページ等での学習成果等の発信によるブランドイメージ作り

光英 VERITAS 中高として「探究」、「英語」、「理数」「iPad」「小笠原流礼法」を主とした学習活動や学習成果をホームページから発信することで礼法教育による「ひとづくり」を根幹としながら「人・社会・自然に貢献できる次世代リーダーを育成する学校」のイメージを構築し、学校説明会等への来校者増につなげる取り組みを実施しました。また、同様に SNS、E メール、DM を活用した情報発信により、学校説明会等への来校者増加と学校のブランドイメージ構築に努めました。

（３）教育力を訴求力とする学校説明会等の開催

光英 VERITAS 中高の教育力の高さで訴求する学校説明会等を開催しました。

・生徒の学習活動（探究科の研究発表、英語スピーチ等）、生徒が取り組んだ学習の成果物（探究発表ポスター等）等を見せ「生徒の成長の姿」、「生徒の学習成果」を受験希望者に対する訴求力とする、募集と教育を一体化させた説明会等を開催しまし

た。

・受験希望者に対し「探究学習体験講座」（中学校５回、高等学校３回）「部活体験講座」（中学、高校とも３回）を実施しました。

・生徒主体の企画（来校者への歓迎プレゼンテーション、校内案内等）を盛り込んだ学校説明会等を実施しました。

《基盤整備》

（４）野球部活動環境の整備

男子生徒募集に貢献度の高い硬式野球部が創部４年目の活動を行いました。令和７年度は高校生 103 名に加え中学生 20 名（マネージャー高校８名，中学２名を含む）の大人数で活動を始めており、運営に必要な施設・設備（防球ネット等）の整備も進めています。

（５）業務改善による教育力の向上

働き方改革を推進し、法令で取得すべき日数が定められた有給休暇の確実な取得や勤務時間内での業務完了に努めました。経費の削減をするとともに、業務効率の向上により教育の質を高められるように環境を整備しました。

【環境配慮】

（１）教育課程上に位置づけた環境教育の実施

探究科の学習計画の中に SDGs に関連した環境テーマの内容を組み込み、多面的に環境について考えられる生徒の育成を実践しました。また生徒会の各種委員会でも SDGs（環境問題）に貢献する活動を実施し、自然環境に配慮できる学校づくりに取り組みました。

（２）エネルギー等の削減

教職員に対しての指針であり、かつ、生徒に心がけてもらいたいことを教員から伝えていくための指針である「節約のための行動指針」を作成しています。環境に配慮し、エネルギー等の削減による CO2 排出量減を推進しています（令和６年度における生徒１人あたりのエネルギー等使用量の前年度比:電気 99.0%、ガス 5021.1%、水道(上水)86.5%、灯油 37.9%、紙 97.4%　ガスと灯油の数値が前年から大きく変化しているのは、令和６年８月から校内の冷暖房設備を灯油使用からガス使用へと変更したため)。

５．聖徳大学附属取手聖徳女子高等学校

【教育研究】

《教育の質の向上》

（１）探究する学びの実践

① 「聖徳プロジェクト」の推進

「聖徳プロジェクト」は、令和６年度で３か年のプログラムが完成しました。総合的な探究の時間（週３時間）、ホームルーム活動（週１時間）、教科探究（週２時間）、進路探究（週４時間）を活用する中で、地域社会や聖徳大学との連携を深める等、豊富な探究の機会を提供し、生涯にわたって自ら考え、学び続けることができる生徒を育成しました。令和６年度から３年次の進路探究のプログラムが始まり、授業内で卒業論文研究と進路実現に取り組みました。

学びの成果は様々な場で発信されています。令和６年 12 月 14 日（土） に開催された聖徳大学主催「第９回 高校生の体験発表会 ステージ発表型」には、６年生（高校３年生）１名が参加し、「千葉県高等学校長協会会長賞」を受賞しました。また、令和７年２月１日（土）に開催された「第９回 高校生の体験発表会 オンライン発表型」では、６年生（高校３年生）１名が参加し、最優秀賞に当たる「聖徳大学長賞」を受賞しました。

また、令和６年３月 24 日（日）に茨城南青年会議所と協働し商品開発に取り組み、ひまわりの種子を活用したチョコレートペースト「ジャンドゥーヤ」と地元産の食材を活用した「カラフルどら焼き」の２つの商品化が実現しました。10 月の聖徳祭（文化祭）でも発売し好評を得ました。特に、放課後や休日を活用し SDGs の探究的な学びをものづくりに繋げている「ひまわりプロジェクト」が開発した「ジャンドゥーヤ」は、近隣の「パン工房 クーロンヌ」で販売を継続する等、広がりを見せています。

第９回 高校生の体験発表会

ジャンドゥーヤ

カラフルどら焼き

② 「学びの推進力」（12 の力）を意識した教育活動

本校では「生涯にわたって自ら考え、学び続けることができる生徒（学び屋さん）の育成」を目指しています。学び屋さんに必要とされる資質・能力を 12 に分類し、「学びの推進力」としました。本校では「学びの推進力」（12 の力）の定着を聖徳プロジェクト、全ての教科・科目で意識して教育活動を実践しており、生徒の振り返り及び授

業アンケートの結果をもとに、指導の改善を図っています。

③ 高大接続の研究・実践（研究でつながる高大一貫７年制プロジェクト）

「聖徳プロジェクト」と聖徳大学の「Business Field Linkage」「Field Linkage」との高大接続は、生徒の社会への関心を高め、探究する学びの基礎となっており、生徒から高い満足度を得ています。「Business Field Linkage」については、春学期に５年生（高校２年生）が「現代社会のビジネスリテラシー」を、６年生（高校３年生）普通科の生徒が「就活にも役立つビジネスリテラシー」を受講しました。６年生の内部進学希望者は、秋学期も継続して受講しました。

また、「普通科児童保育コース」「普通科看護コース」は、聖徳大学教育学部児童学科･看護学部･附属幼稚園との連携を密にし、幼高大連携した体験的な学びを推進しています。令和６年度はいくつかのプログラムを試行しました。令和７年度より本格的な高大連携プログラムが動き出します。

児童学科の体験授業

附属幼稚園での保育体験

看護学部の体験授業

④ 「観点別評価」の実践と研修

「12 の力」をベースに探究活動を通して身につけた能力を測る評価ルーブリックを開発しました。進路探究の評価では、成果物や結果のみで生徒を評価しようとせず、探究活動への取り組み過程や、意識・意欲の変化なども評価するよう試みました。今後も、これまでの授業に対する観点別評価の研究と実践を通して培ってきた知見を活かして運用し、常に改善をしながら、一貫性のある取り組みと適切な評価を進めます。

（２）ICT 環境の整備

① 生成 AI の活用

授業その他の探究活動において、生成 AI の活用等の研修･研究を進めています。個人情報保護やセキュリティ･著作権等に十分に留意しつつ、先進的な取り組みを進め、成果・課題を十分に検証し、知見の蓄積を進めました。同時に情報の真偽を確かめることの習慣付けも含む、情報活用能力を育む教育活動を一層充実させ、AI 時代に必要な資質・能力の向上を図っています。また、教員研修や校務での適切な活用に向けた取り組みを推進し、教師の AI リテラシー向上や働き方改革に繋げました。

その成果の一部は Microsoft 社の雑誌に掲載されました。

② 常設のプロジェクターの整備

特別・普通教室においてプロジェクターや電子黒板の活用を進めています。生徒がプレゼンテーションで PowerPoint を活用することが増えています。令和７年度以降も常

設のプロジェクター及び大型のディスプレイの整備を続け、生徒が映像や情報にアクセスしやすいように設計するなど日常的なICT活用を促進します。

③ Microsoft 365の活用の研究

「Microsoft Innovative Educator Experts(マイクロソフト認定 教育イノベーター)」に認定された教員を中心に、Microsoft Teamsをはじめとするアプリケーションの先進的な活用を進めています。令和７年２月19日（水）に宮城県教育庁高校教育課及び宮城県立の高等学校の視察を受け、ICT 教育及び校務の DX（デジタルトランスフォーメーション）について、本校の取り組みを紹介しました。

中でも、生徒の卒業研究（マイプロジェクト）の成果であるPowerPointと卒業論文をデジタルアーカイブ化し、Web での閲覧･検索を可能とした取り組みに注目が集まりました。このデジタルアーカイブの活用により、在校生が身近な先輩の成果を自らの学びに活用しより深化させることが可能となり、探究する学びのレベルアップが期待できます。

《個別最適化した進路実現》

（３）探究活動を通した進路実現

「聖徳プロジェクト」の進路探究プログラムを通して、総合型・学校推薦型選抜入試対策に特化した進路指導を進めた結果、現役進学率は 98.2%となり 95%以上を堅持しています。特に、聖徳大学と連携した探究活動と探究活動発表方式型内部入試に向けた対策を推進した結果、聖徳大学への進学率が41.1%と前年度実績30.5%に比し、10.6ポイント向上しました。

（４）個別最適化した学びで生徒一人ひとりの進路実現をサポート

「ＭＹカリキュラム」と「聖徳プロジェクト」の推進により、生徒一人ひとりの進路に対応した個別最適化した学びを実現し、生涯学び続ける姿勢と資質・能力を備えた生徒を育成しています。

また、探究する学びの集大成としての「マイプロジェクト（卒業研究)」では、卒業学年の生徒全員がPowerPointを活用したプレゼンテーション発表と4,000字以上の論文執筆に取り組みました。令和６年 10 月 20 日（日）に実施された聖徳祭（文化祭）において秀作の中間発表を実施し、在校生保護者及び入試説明会に来校した受験生より好評を得ています。生徒たちはこの学びの成果を個々の進路実現に繋げ、総合型･学校推薦型選抜入試での進学率は92.9%、４年制大学進学率は92.9%となりました。

【地域・社会貢献】

（１）社会に開かれた学校づくり

取手市教育委員会の要請により、市内の小学校３校の水泳授業に延べ15日間、本校のプールを貸し出しました。また、クラブチーム５団体９種目に体育館･グラウンド･プールを開放し、社会に開かれた学校づくりに取り組み、地域との信頼関係を更に強めました。

また、吹奏楽部は近隣地区の幼稚園･中学校･自治体から訪問演奏の依頼を受け、令和６年度は５回の演奏会を開催しています。令和７年３月28日（金）牛久市中央生涯学習セ

ンター文化ホールにて開催した「第36回 定期演奏会」には、1,000名を超える来場者を迎えることができました。
他にも、箏曲部が取手市の賀詞交歓会で演奏したり、ダンス部･ボランティア部が取手市主催のイベントに参加したり、有志生徒が交通安全運動に参加したりと、地域と連携した活動を展開しています。

【管理運営】

《生徒募集》

（１）「聖徳ファン」層を拡大

本校の探究する学び、手厚い進路指導、個性が生かせ、互いに認めあい、高めあう「新たな学校文化」と「礼法」「食育」の伝統的な「人間教育」、「大学附属」「女子校」の魅力を受験生や保護者に伝え、「安心して学べる学校」をPRし、「聖徳ファン」層を拡大に勤めました。受験対策にとらわれずに学校生活を送り、自らの興味・関心を広げ様々なことにチャレンジする生徒の姿を伝え、偏差値だけに頼らない学校選びを広め、受験生・入学生増に繋げています。
生徒募集関連のイベントでは、後援会役員の方々による座談会や懇談会も好評で、在校生保護者から直接受験生･受験生保護者に本校の魅力を伝えていただくことができ、入学者増に繋がっています。
聖朋会（同窓会）子女･姉妹の受験生は15名（200名中）･入学者は９名（90名中）に上りました。今後、聖徳大学の同窓会と連携した学校紹介イベントを企画し、卒業生たちの母校回帰の機会を増やし、聖朋会子女･姉妹の更なる入学者増を目指してまいります。
また、令和６年12月３日（火）に、現役の助産師として働く卒業生（第29期生）による「いのちの授業」を実施しました。NICUと周産期医療の現場での経験から、いのちの素晴らしさをお話していただきました。加えて、高校卒業から助産師になるまでのキャリアパスも率直にお話していただき、身近な先輩の経験談は生徒たちの心に響くものとなりました。この様子をHP等で紹介したところ、卒業生からの反響も大きく、聖朋会（同窓会）が母校と繋がる契機となりました。

（２）特色ある学科・コースを軸にした生徒募集の展開

茨城県･千葉県下唯一の私立音楽科併設校、また茨城県下唯一の「普通科吹奏楽コース」と吹奏楽部の活動実績をブランドイメージとして生徒募集活動を展開し、音楽科入学生は15名と増加しました。また、受験生の34.0%が中学時代吹奏楽部に所属しており、入学生の内32名（90名中）が吹奏楽経験者と生徒増に繋がっています。
聖徳大学との高大連携を進めている「児童保育コース」「看護コース」については、90名の入学者の内18名が「児童保育コース」を、７名が「看護コース」を入学の動機に挙げました。令和７年度より本格始動する両コースの取り組みを随時広報し、更なる生徒増に繋げます。

（３）効果的な生徒募集イベントの企画と情報発信

生徒の授業アンケート･進路アンケート結果はともに満足度 90%を超えました。また、生徒･保護者に実施している学校評価についても満足度が 85.0%を超え、多くの生徒･保護者が「安定した学校生活を実感している」と応えています。この本校の良さが受験生･保護者に伝わるよう、生徒募集イベントでは在校生･保護者から受験生に直接働きかける場面を多く設けました。また、HP による動画配信、Facebook・Instagram・LINE 等と HP を連動させた広報展開を推進し、入学者増に繋げました。

（４）全国・関東で活躍する部活動の広報

令和６年度は、吹奏楽部が全国大会第１位に１回入賞、水泳部が全国大会第３位入賞、箏曲部が全国大会に３回出場、陸上部が関東大会に２回出場という成績を残しています。また、音楽科生徒たちの全国レベルのコンクールでの活躍も増えています。この輝かしい活躍を効果的に広報して、入学者増に繋げました。

《基盤整備》

（５）目標達成に向けた協働の実現

授業をはじめとする教育活動について、目標を適切に設定することと、それらに関わる情報を共有することによって、学校目標の達成に向けた教員間の協働を深めています。特に、探究活動に関して、各学年・分掌横断的な取り組みを進め、実践とその評価を繰り返すことで、継続的な改善を図りました。この教員間の協働性については、その取り組みの一部が Microsoft 社の雑誌に紹介されています。

（６）ICT 化による業務の効率化

Microsoft Teams を含む Microsoft 365 のサービスを活用し、教育活動の充実と業務の効率化･経費節減を進めています。組織横断的な協働的活動と業務の効率化は、教職員が教育活動にさらに専念できる環境に繋がっています。

Teams については､生徒･教職員間の活用に留まらず､保護者との連絡にも活用しました。学校からのお知らせの即時性を担保するとともに、保護者会の出欠の回答やアンケートの収集にも Microsoft の Forms を活用し､ダイレクトに集計ができるようにしています。学年だより･聖徳プロジェクト通信･後援会報等も全て Web 化し、好評を得ています。

（７）警備の機械化による安全性強化及び業務効率化

警備を機械化し、校舎内点検及び施錠･安全管理へ教職員が積極的に関わり安全性を強化するとともに、安全管理業務の効率化に繋げています。

【環境配慮】

（１）環境教育の実施

教育活動全般で、持続可能な開発目標 SDGs の学びを推進し、地域環境の保全に努めました。ゴミの分別の徹底･使用済みコンタクトレンズケースの回収等、生徒たちは身近な活動に主体的に取り組んでいます。

（２）ICT の活用によるペーパーレス化の推進

教育活動全般及び校内で実施される会議等において ICT の活用を進め、ペーパーレスを推進し、コスト削減を継続しています。

（３）エネルギー等の削減

教育活動で使用するエリアの最適化を図り、エネルギーコストの低減化を継続しています。

６．聖徳大学附属小学校

【教育研究】

《教育の質の向上》

（１）新教育課程（新学習指導要領対応 道徳・英語・プログラミング）を上回る学力形成と人格形成の実現

新学習指導要領の完全実施のもと、毎週の「週案簿」提出による学習指導の実施状況の把握の徹底とカリキュラムの検討、評価表作成など、指導と評価の研究を進めました。新教育課程を上回る指導を実践する学校として、発展的な学習内容を計画的に取り入れ、中学受験に対応できる学力形成・人格形成に取り組みました。

（２）「思考力・判断力・表現力」向上に向けた学習指導・学級経営の実践

すべての教育活動において児童・保護者が満足できる学習指導・学級経営を進めていくため、新学習指導要領に示されている「何ができるようになるか」という点を意識し、特に「学習感想」や「振り返り」等、自分の考えをまとめ上げる学習活動に重点を置き、授業研究を通して、学校全体で児童の「思考力・判断力・表現力」の向上に努めました。

（３）ICT 活用による効果的・効率的な学びの促進

現在、児童が一人一台タブレット端末を所有し、学習に活用していくための環境整備も整いました。学年の発達段階に合わせ、ICT 機器を効果的・効率的に学習に取り入れ、学習成果に繋げました。また、特に高学年では、タブレット端末を活用したプレゼンテーションの学習を重ね、表現力・発信力の向上に成果を上げました。

同時に、ICT 活用による創造的な表現力の育成に必要となる指導スキル獲得のための教員研修を重ねました。

《進学の向上》

（４）光英 VERITAS 中学校との連携強化

光英 VERITAS 中高教員の専科授業における指導の導入により、児童自身の中高の魅力の実感を内部進学への意欲の向上に繋げていきました。また、相互交流を更に活性化させ、互いの利点を積極的に情報発信することにより、さらなる関係強化に取り組みました。

（５）未来の創り手となるために必要な資質・能力の育成と、中学受験で求められる学力の向上

将来への夢や希望をもち、中学受験に向けた心と頭を 1 年生から発達段階に応じて育てていくため、基礎学力の定着の自覚化と自信の向上につながる「漢字検定」、「算数検定」に合格できるよう、日々の指導を徹底しました。合格率は、双方ともに 95%を達成しました。令和６年度は、中学受験において、筑波大学附属中、麻布中、明大中野中、渋谷教育学園幕張中、市川中、東邦大学付属東邦中、浦和明の星女子中を筆頭に、良好な結果を得ることができました。

（６）授業研究を通しての、聖徳大学との連携のさらなる深化と指導力の向上

研修部による年間計画を作成し、教員同士の相互評価を含め、経験年数に応じた授業研

究の形を毎年工夫し、主要教科である国語と算数、そして、専科（音楽・図画工作・英語・礼法・体育）で実施することで、指導力の向上に努めました。

【地域・社会貢献】

（１）同窓会組織を活用した、児童・保護者への学びの場の提供

本校では、1989 年度から現在までに、2,350 名を超える卒業生が巣立っており、成人し、社会の各方面、幅広い業種で活躍する卒業生が数多くいるため、卒業生から児童に向けての授業をキャリア教育の一環として実施し、さらには、保護者向けの学びの場も提供できるよう同窓会組織の活用を進めました。

【管理運営】

《児童募集》

（１）専願入学者数を増やすための入試・募集改革

説明会参加者へのアンケート調査・分析による広報戦略の改善、出願前のダイレクトメールや幼児教室訪問をタイムリーに重ねて行い、説明会参加者をこれまで以上に増加させ、また、個別相談も強化し、出願につなげ、専願入学者を増やすよう努力を重ねました。その後のⅡ期以降の入試においても、幼児教室訪問や個別相談会、個別学校見学対応を重ねることで出願者増に向けて尽力しました。最終的な入学者は、昨年度より 12 名多い 61 名となりました。

（２）入学したいと思える魅力的なイメージ戦略の強化

他校ではできない特色ある教育活動を取り上げ、他校との差別化、独自性を明確に打ち出し、募集活動の主軸にするとともに、児童たちの声や学習成果、「何ができるようになったのか」、具体的な向上の姿や活動成果を可視化し、ホームページ内の最新トピックスや教員ブログ、そして、Facebook、Instagram の活用により、これまで以上にスピード感をもって多数発信していき、入学したいと思える魅力的なイメージを作っていきました。また、現在進行形の新鮮な情報発信に努めるだけでなく、その情報を見ていただく手立てとして、積極的な幼児教室訪問を重ね、出願へと繋げていきました。全教職員一丸となり、全員が広報部主任の気概を持って情報発信にあたり、令和６年度の更新回数は、512 回にのぼりました。

（３）児童の学習活動の向上の可視化を強化した広報戦略

児童に対し、計画的に各種コンクールへの挑戦を促し、児童の意欲を喚起し、本校の特色あるカリキュラムによって身についた力の成果を可視化していきました。また、育成した表現力を校内外に積極的に発表する機会としました。令和６年度は、「てのひら文庫賞」読書感想文全国コンクールにおいて、４年連続、全国一の「最優秀校」を受賞することができました。個人賞でも、各学年から１名のみの受賞となる最優秀賞に二学年から受賞者が出るなど、最優秀賞・文部科学大臣賞１名、最優秀賞１名、優秀賞２名、優良賞３名、佳作賞 13 名、奨励賞 27 名と、合わせて 47 名、過去最高の受賞者数となり大きな成果を上げました。受賞結果はホームページから迅速かつ効果的に発信し、学習成

果の効果的な広報となりました。

（４）「聖徳アフタースクール」の充実

放課後の児童の預かり、及びアフタースクールの充実《選択制プログラムの（月）～（金）実施、及び、短縮授業期間、長期休業期間中の特別時間枠による実施》を図り、共働き等、必要感を持つ層への働きかけをさらに行い、入学者数増につながりました。選択制プログラムの内容は各教科学習の発展的内容であり、かつ、児童の知的好奇心を満足させるもの、潜在能力、無限の可能性を伸ばせるものを開発しました。新鮮な体験から生まれる感動、豊かな感性が意欲的な学びを引き出し、夢中になって取り組むことで、新たな自分自身の可能性に気づき、新たな学習意欲の芽吹きに繋がるよう構築しました。

【環境配慮】

（１）緑豊かな附属小学校の校地を活かした、環境への主体的な意識を高める指導の強化

本校には、他校との大きな差別化となる、本校ならではの「小学校の教科書に掲載されたすべての樹木が植えてある緑豊かな校地・校庭」があり、日頃自然に親しむことが難しい児童たちにとって大変恵まれた環境であることから、この環境に触れ、学習活動に活かす機会を充実させてきました。低学年は生活科、高学年は理科の授業を通して学び、同時に環境への視点も育てました。環境教育の一環として、4年生を中心に「環境日記」に取り組みました。自分自身の省エネに対する具体的行動を12週間にわたる日記にまとめることで一人ひとりが自分自身のこととして環境問題に向き合う意識が高まりました。

（２）徹底した業務の効率化の実行

教職員間の連絡や情報管理・情報共有等、業務方法を紙配付からデジタル化へ移行し、加えて保護者へ配付するお便り等も紙配付からデジタル配信へ移行し、決められた時間内に効率よく職務を遂行していくことで、紙の使用量や電気使用量を削減することによりエネルギーの節約につながる環境配慮に努めました。

７．聖徳大学附属幼稚園・附属第二幼稚園・附属成田幼稚園・附属浦安幼稚園

【教育研究】

《教育の質の向上》

（１）聖徳幼児教育の成果の発信による保護者満足度の向上

本園の保育や行事を通じて成長した子どもの姿を幼稚園での教育の成果として保護者に常に発信するため、すべての幼稚園行事は保護者に教育の成果を実感していただく機会と位置付け、徹底しました。

行事だけでなく保護者来園の際にも、子どもの実態や保育の成果について話をすることで保護者に教師の意図を理解していただく機会を設け、またＨＰ作成についても教職員各々が手掛け日々の子ども達や行事の様子、幼稚園の環境、教職員の仕事など多角的な情報発信ができるスキルを共有し高めました。

園児一人ひとりが幼稚園全体、学年、クラスの一員として自分らしさを発揮できるよう、個人個人に合わせた教育を行ってまいりましたが、教育の意図やねらいについて経緯まで含めて保護者が「見える」発信が今後の課題と捉え、保護者理解度の振り返りとの調整、改善に今後も一層努めます。

（２）教員の教育力の向上

日々の保育の中での管理職による教育、指導の充実を基盤として、四園の全教員が他園の保育に参加し他園の教育を実体験する四園相互見学研修を実施し、気付きと学びの振り返り活動、意見交換を通じて教員同士の学びを深め、全教員の教育力を高めました。

その他にも聖徳大学夏期保育大学への全員参加、年３回の四園合同研修、秋の七園研究保育や春季七園合同研修を通じて、とくに幼児教育現場でのハラスメントや不適切保育について、ならびに特別支援教育について今年度は理解を深めました。

（３）発達段階に応じた基本的な生活習慣の習得のサポート強化

これまでのデータ分析から得られた数値を捉え、より効果的な指導時期を設定し全教職員で集中的に指導にあたりました。

具体的には正しい箸の持ち方、誰にでも挨拶、の２点を軸に取り組み、附属幼稚園ではそれぞれの課題習得へのプロセスを重視し、保護者と共に手がかりを探り、経過を知らせ、子どもの育ちと保護者連携の両面からのアプローチに努めました。箸の持ち方については、重点的に指導する園児には教師が隣に座るなど各教員が工夫して指導した結果、年々向上しています。保護者の関心度に差があることを今後の課題と捉えております。

附属第二幼稚園は保護者の意識を高められるよう、数値を定期的に公表することを検討しながら指導にあたりました。年齢の低い園児にはご飯をラップで丸めたり箸で食べやすいようにしたりして配膳し、長期休暇に入る際は家庭での取り組みを促したことで、上達した幼児が多くみられました。附属成田幼稚園でも環境に慣れ食事のマナーも身についてきた頃から重点的に指導しましたが食事の時間が長くとれず十分な指導が出来なかったという点を改善するため、食事(指導)の時間を長くとるための指導を今後行ってまいります。

附属浦安幼稚園でも箸でつかみやすいようにごはんを一口サイズにまるめたり、おかずも一口サイズにカットして箸で食べやすいように工夫しました。椅子の座り方や、食べ方などのマナーから指導し保護者にも個別面談や降園時に個別指導し意識を高めました。園児には、正しい箸の持ち方が自分でどの段階にいるのか、『見える化』して理解できるように一覧表を作り、保育室に掲示したところ、積極的に取り組むようになりました。
挨拶については各保育室を回る挨拶運動を実施。玄関や保育室など決まった場所でのあいさつはできるようになりましたが挨拶をする意味の理解や主体的な挨拶が難しい様子があり、意欲をもって取り組めた面はありますが形式的になっている面も見受けられますので、教職員が実践する姿が園児にとって最良の手本となるよう幼稚園全体の活気と士気を上げて取り組み、相手に伝わる「おはようございます」「ありがとう」が言える（表現できる）姿を目指してまいります。

（４）幼児の可能性を引き出す各園の重点取組のカリキュラム展開

本園の教育方針である「遊びを通した学び」の過程や効果は保護者からは見えづらいという認識から、聖徳大学附属幼稚園では七園合同研究保育で取り組みを始めた「ポートフォリオやドキュメンテーション」による「見える化」を念頭においた保育をカリキュラムに展開しました。
カリキュラムを基準にしながら、幼児主体の保育を進め、園児の育ちの過程をポートフォリオや行事で可視化し保護者に伝え、また伝統ある変わらぬ教育と時代の変化に合わせた新しい取り組みを融合させた挑戦的教育・運営にも踏み出しました。
聖徳大学附属第二幼稚園、成田幼稚園では園内の各遊びコーナーの環境を充実させ、幼児がより主体的かつ意欲的に活動を発展できる環境を整え、幼児の豊かな活動を引き出すためにカリキュラムに展開し、教育効果を高めることに取り組みました。また今後は「はだし教育」の効果を再確認するための実践的な研究にも取り組みます。
聖徳大学附属浦安幼稚園では本園の特徴的な教育として継続的に実施している体育的活動について更に発展させ、運動遊びを通して身につけた「動き」をもとに更に複雑な動きも出来るようになると共に、友だちとの関わりや規範意識も育てています。できないことができるようになる喜びを体験することで様々な「動き」に取り組む意識が高まりました。今後も一層、表現遊びやリズム遊びとの結び付けのなかで教育効果をより高めることに取り組みます。

《進学の向上》

（５）附属小学校との連携強化

相互交流を更に活性化させ発展的な関係強化に取り組み、附属小学校の運動会等の行事や児童募集イベントの際には幼稚園の教職員が直接、附属小学校の児童等と関わり附属小学校と一体となった体制作りを行いました。

【地域・社会貢献】

（１）地域への積極的参加と幼児教育機関としての存在感の向上

地域の自治体や大型施設のイベントに年間を通じて積極的に参加し、園児の園外教育活

動に位置付けながら本園の教育を地域に発信し地域での存在感向上に取り組みました。また浦安幼稚園では市内の市立中学校の職業体験を実施するなど未就園児にかかわらず地域への積極的参画に取り組みました。保護者が安心して子育てできる環境を地域に提供し今後も地域に開かれた幼稚園の役割を進めていきます。

（２）SEITOKU オープンキンダーワールド（園庭開放・親学）の強化

未就園児イベントとして、また地域における子育て支援施設としての拠点化への取り組みとして注力しました。未就園児の保護者に本園の教育に興味をもち参加いただけるようホームページや Line などで情報を広く伝え、休園日などを利用し各園とも年間 15 回以上に渡り実施しました。

季節のイベントを活動内容に多く取り入れることを工夫し、七夕やクリスマス、節分などの製作あそび、夏季の水あそびなど、アンケートの要望に応えるものを積極的に行いました。その他、幼稚園での教育活動が見えるような絵本の読み聞かせやパネルシアター、園庭遊びや砂場遊びなど、親子が楽しめるような活動を行ないアンケートでも高い評価をいただきました。

（３）預かり保育の強化

女性の就労率が更に上昇していくことを認識し、また幼児教育無償化の施策に伴って増加している共働き世帯を含めた、すべての子どもに良質な幼児教育を提供するために預かり保育の運営を強化し利便性の向上に取り組みました。

預かり保育の安全と充実を図りながら環境を整え、他学年との関わり、交流を通して学べることや成長していることについて保護者にホームページなどで発信し、縦割りでの関わりを充実させ活動内容を工夫しました。今後も友達同士の結びつきや教師との信頼関係の構築を目指し、内容充実に努めます。

【管理運営】

《園児募集》

（１）新入園児の増加

安定的に質の高い幼児教育を提供するために教育内容と教育効果の可視化を図るとともに園児数を増加させることで経営基盤の安定に取り組みました。

未就園児対象に園庭開放を軸に行った SOK（SEITOKU オープンキンダーワールド）、幼稚園見学会、入園説明会等では保護者から入園においての悩みを聞き、幼稚園入園への不安について相談にのり丁寧にかかわり入園希望へ結びつけるための活動を精力的に行いました。その結果、昨年の入園手続が芳しくなかった附属成田幼稚園、附属浦安幼稚園では入園手続者が増加し、四園として地域の出生数の減少以下の若干の減少に留めることができました。今後は更に未就園児家庭に幼稚園教育の良さ、素晴らしさを来園時に感じて頂けるよう幼稚園見学会や SOK を充実させ、また地域の『子育て広場』や近隣施設との連携を進めます。

また「保育の聖徳」の強みを活かし聖徳大学、聖徳大学短期大学部との連携を活性化させ、未就園児保護者の安心と信頼の獲得に尽力してまいります。

（２）保護者の利便性の向上

経営基盤の安定のために重要な保護者の満足度向上のため、教育内容や教育環境の充実をはかるとともに「れんらくアプリ」の活用拡大による園への届け出のペーパーレス化など保護者の利便性を向上するためのサービスに努めました。

感染症罹患後に登園する際についてもアプリ登録対応とし、幼稚園バスの入退会や課外活動の入退会なども完全ペーパーレスに移行しましたが、しばらくは紙での提出も併存させる等、可能な限り保護者の利便性に配慮しました。

また、ポートフォリオやドキュメンテーションを活用した教育の可視化の水平展開にも取り組み、保育参観にて聖徳大学、同短期大学部の教員から保護者への講話を実施する等にも取り組みました。

（３）給食の充実

「給食があるから」が本園を選んだ理由で第１位である現状を踏まえ、令和６年度より四園全園にて月曜日から金曜日までの週５日完全給食を実施し、保護者満足度の更なる向上に努めました。アンケートでも高評価を得ており、今後の園児募集に有効につなげてまいります。また、ホームページでの「本日の給食」の写真公開等を通して入園後の満足度の向上にも努めており、自園調理と専任栄養士による他園との差別化、担任が個々の状況に合わせて配膳すること及び、年長児は役割当番として参加し協調性を育成することのメリットを積極的に発信することにより、新入園児の募集にも効果的につなげています。

また、昨今増加しているアレルギー児への対応を大きく見直し、多様なニーズへも対応しております。

（４）送迎バスによる園児募集強化

少子化が進行していく中で園児募集活動において通園バスは更に重要なツールとなっていくことを認識し、安全運行の徹底や利便性はもちろんのこと、将来的に園児の獲得が有望な地域を的確に把握し、中長期的視野に立ったバスコースの変更、改善、増設に取り組みました。とくに成田幼稚園と浦安幼稚園においては変更改善の結果が園児募集に結びつき、入園手続の増加となりました。

（５）２歳児保育（未就園児教室）の実施

２歳児保育について保護者の負担が少ない未就園児教室（幼児ルーム）の需要が増えており、そのニーズに応え聖徳大学附属幼稚園にて親子教室として「ひよこ組」を年間を通じて実施し、多くの子どもを入園に結びつけることができました。

入園対象の未就園児が減少している中、企画や見せ方を工夫し本園の教育を理解していただき満３歳児学級に加えた園児獲得手段として有効に機能させてまいります。

《基盤整備》

（６）残業時間の削減

適正なワークライフバランスに向け、「れんらくアプリ」等 IT の活用を促進し、引き続

き業務の効率化に取り組むとともに、業務内容の整理やアウトソーシングなどにより、教職員の家庭環境の変化にも十分に対応できる労働環境の整備に取り組みました。
実効的な残業時間削減と意識の向上を目的としたノー残業デーを実行し、残業時間を削減することができました。

（７）安定した経営のための運営形態の検討

［附属成田幼稚園］
成田市内は公立・私立の保育園が多く共働き世帯の増加に伴う保育所ニーズの上昇もあり市内の幼稚園はいずれも園児募集に苦戦を強いられている状況があります。認定こども園への移行についてはこども園化した幼稚園への実情のヒアリング、また成田市に相談を行うなど検討を重ねました。将来的に経営を安定させることができる運営形態を今後も検証します。

【環境配慮】

（１）環境整備の徹底

環境負荷の軽減のみならず、園内の安全管理上の観点からも重要性を訴求し、教職員の環境保全への意識の向上に取り組みました。室内や園庭の環境整備を日々行ない、園内の施設設備、遊具等について、また附属成田幼稚園においては老朽化した設備を市の補助金を活用して入れ替え、園児の安全のための安全管理をすすめました。

（２）ペーパーレス化の推進

保護者への紙での連絡の廃止を推進してまいりましたが、「れんらくアプリ」を通した発信への移行が完了しペーパーレス化を達成しました。

（３）園児への環境教育の実施

各園の実情に応じ園児への環境教育をそれぞれ行いました。
聖徳大学附属幼稚園ではリサイクルの促進、CO2 の削減、売却益での発展途上国の医療支援、障がい者・高齢者雇用促進の 4 つの目的を持って「エコキャップ運動」を行い、社会貢献活動として環境教育を実施しました。
聖徳大学附属第二幼稚園では、園児と一緒に燃えるごみとビニール・プラスチックゴミの分別を行っています。園児が自ら分別してゴミを捨てられるように環境を整えています。幼児が主体的に関わり興味関心を広げられる場となるよう、取り組んでおります。
聖徳大学附属成田幼稚園では季節を感じられるような花壇作りを行い、登園してくる際には親子で会話する姿が見られました。園庭の奥の畑ではじゃがいもやさつまいも、稲も育て、食育にもつながっております。
聖徳大学附属浦安幼稚園では環境教育として年中、年長児による「環境見回り隊」に引き続き取り組み、節電、節水等省エネルギー活動に園児とともに取り組みました。

（４）使用エネルギーの削減

SDGs の学びを推進し、園児の健康と節電、省エネルギーの両立に取り組み、四園それぞれについて昨年度よりも電気使用量を抑えることができました。

８．聖徳大学三田幼稚園

【教育研究】

《教育の質の向上》

（１）子どもの発達を保証する教育課程の改善・実施

教育課程、長期の指導計画を修正し、教育内容の配列、行事の見直しを行いました。特に遊戯室では大型木製積み木の遊びの充実、子ども図書館での「読み聞かせの会」を開催するなど実践したことで、学校評価で保護者から高く評価されました。また、医務日誌の分析によりが園舎の２階の廊下、園庭の太鼓橋でのヒヤリ・ハットの発生が多いことが把握できたので、安全対策を講じ、安全性を担保しました。

預かり保育の年間計画を見直し、特に今年度から夏季休業中の預かり保育を実施したことから日案を作成し、水族館やベイエリアへの遠足、夏野菜の収穫などの夏ならではの体験ができるようにしました。

（２）思考力・表現力の育成

砂場、様々な種類の積み木を使った遊び、傾斜を使った遊び、空き箱を使った製作、鬼ごっこなどの運動遊びなどについて、予測したり、工夫したり、しくみを考えたりして友達と話し合い、新たな発見につながる気付きを促す教育を実施しました。また、表現発表会ではそれぞれが役になりきり、小道具、大道具も自分たちで作成して、創意・工夫を促す教育を実施してきました。

（３）研究・研修で教員のスキルアップ

各学年で打ち合わせを行って週案を作成し、さらにおおむね毎月１，２回の職員会議を開催し、幼児の理解を皆で共有して、行事の在り方、活動の在り方、指導方法について協議を行ってきました。一人一人の指導については幼児の実態を教員同士で話し合い、具体的指導、保育の在り方を検討、実践してきました。特に特別な配慮が必要な幼児については、園内研究会を開催して指導について検討し、園の教員全員が必要に応じて関われるようにしてきました。保護者の学校評価では、教員が一人一人の幼児に丁寧に接し、理解を深めて指導していると高く評価されました。

【地域・社会貢献】

（１）子育てパートナーの役割を担う幼稚園

今年度も意識的に給食の試食会、遊びを中心として参観、父親を対象とした参観、祖父母を対象とした参観など、様々な形の保育参観を実施し、子どもたちの成長を実感する機会を設定しました。

また、個人面談も学期ごとに実施し、子どもたちの発達の実際を教員と保護者が共有し、個別な問題については、担任だけで対応するのではなく管理職とも共有して相談に応じてきました。

未就園児のための園庭開放「にこにこ広場」を５回実施し、毎回多数の参加者が園を訪問し、遊びや在園児との関わりを楽しみました。

（２）地域と交流している幼稚園

地域との交流は、高齢者との交流が難しかったため、実施できませんでした。園児の祖父母に遊びにきていただく参観日を実施し、地方の祖父母には園児から手紙を出す活動を行い、高齢者との交流を図りました。

【管理運営】

《園児募集》

（１）教育の成果をアピール

教育の成果は保育参観、運動会、こどもアート展、表現発表会などで実感したと、保護者の声が多数寄せられています。さらに日常的な遊びの理解が重要と考え、ブログの掲載では、行事の報告のほかに、各年齢のこどもたちの遊びの様子と教育的な意義について広報するようにしていきました。個人情報の保護のため、掲載に当たっては保護者の許諾を確認しています。

また、園のたよりのほかに、各クラスが「クラスだより」を毎月 1 号発行し、教育の成果について周知しています。

（２）預かり保育の充実をアピール

預かり保育は従来から実施していましたが、長期休業中は実施していなかったため、子どもたちの預け場所を探すことが大変だとの保護者の声や、こどもたちが慣れない場所で過ごさなければならないリスクを考え、令和６年度から夏期は 25 日、冬期は４日間預かり保育を実施しました。特に夏の期間は保育室をオープンにして異年齢の保育とし、園バスで水族館に行くなどの充実策を展開しました。

（３）園見学、説明会の拡充

１回 10 名の定員で園見学会を８回行いました。園の施設の良さや園の教育を園地用が説明し、園内を案内して実際の保育かイメージできるようにして、園児募集につなげていきました。さらに、入園説明会を２回実施し、パワーポイントを使用して、園の教育方針、施設の活用等について具体的に説明し、実際の保育が理解できるように工夫しました。

（４）未就園児教室への参加者の増加

週２日と３日のグループが入会して、親子で登園する未就園児教室を開催しました。

６月から開始し、こどもたちが慣れたころからこどものみの遊びの時間として、幼稚園の行事にも部分的に参加したり、在園児とかかわったりしながら入園につなげていきました。さらに「にこにこ広場」の名称で、０歳児からの未満児親子を対象に５回開催しました。園に登園し、室内の遊具で遊んだり、園庭で遊んだりしました。ほとんどが土曜日の開催だったので、教員が全員で丁寧にかかわることができました。

（５）未満児保育所への働きかけ

在園児の出身園である小規模保育園への働きかけを行いました。今後はこの取り組みをさらに充実させてまいります。

《基盤整備》

（６）安全・安心な教育環境の整備

園内の遊び場のヒヤリ・ハット調査で太鼓橋と二階廊下の安全性が懸念されたので、廊下の歩き方の指導を工夫し、大きなけがの発生を未然に防ぐことができました。

また、太鼓橋からの落下によるけがが発生してしまいましたので、マットを二重にしたり降り方の指導を全クラスで行ったりして、再発防止に努めました。

（７）業務の効率化とモチベーションの向上

園務分掌の見直しを図り、業務の平準化を図りました。また、企画、立案、実施の振り返りを行い、成功体験を蓄積するようにし、業務の効率化とモチベーションの向上を図りました。

【環境配慮】

（１）環境にやさしい活動をする幼稚園

園内の活動としてはエコキャップ、ペットボトルの分別を行っており、空き容器の再利用などを通して環境保護の意識を涵養するようにしています。

９．聖徳大学八王子幼稚園

【教育研究】

《教育の質の向上》

（１）教育目標である「いつもにこにこ元気な子ども」が育つ幼稚園

日々の遊びや生活の中で子どもに主体的な活動を促し、安定した情緒のもとで一人ひとりが自己発揮できるよう、学年に合わせた必要な体験を積み重ねてきました。その結果、幼稚園が大好きで伸び伸びと行動し、自分の行動に自信をもって何事にも最後まで頑張ることのできる子どもへと成長しました。

（２）教員のスキルアップ

今年度も「子どもの主体性を育む保育をめざして」をテーマに姉妹園と共に、年間３回の勉強会を設け、互いの意見交換や情報共有など、学びを深めることができました。また、八王子幼稚園では数年先の研究保育を見据え、子どもの成長や子どもの姿、自身の保育を見つめ直すための勉強会を実施してきました。その結果、子どもの姿が活かせるカリキュラムへと改善、変更いたしました。令和７年度より一新してまいります。そして、“探求心”をもった子ども達に育てることを目指します。そのためには、まずは教員が探求心を身に付けるため、個々で学びスキルアップを図っています。

（３）「心」と「体」のバランスのとれた園児の育成

数年間のコロナ禍で子ども達の生活にも変化が見られ、「規則正しい生活」の見直しを各家庭でして頂くことが大切であること、保護者の方に連絡アプリでのお知らせや参観、個人面談を通して「睡眠」「運動」「食事」においての大切さを知らせ、幼稚園と家庭とが同じ方向で指導が出来るよう促してまいりました。子どもの欠席者は少なく給食での残菜も少量であることから、良く食べ・良く活動することで、週五日間の給食のリズムが整い、子ども達の心身にもよい結果となっています。

【地域・社会貢献】

（１）子育てパートナーの役割を担う幼稚園

年一回の内科検診において、園医の先生に通常の検診に加えて、子どもたちの様子を観察いただき、心身の発達についても助言や指導をいただきました。この助言や指導を日常の保育に活かすとともに、保護者にも適宜フィードバックを行い、保護者の子育てパートナーとなれるよう努めました。そして、二年目となる八王子市子育て支援親子集いの広場ゆめきっずにて年 7 回の出前保育を行い、幼稚園のアピールと共に子育てパートナーの役割を担い、親子が楽しい時間が送れるように教員が制作や絵本・体操等工夫を凝らし、さらに入園へとつなげられるように取り組んできました。今年度はゆめきっずから幼稚園見学に足を延ばして下さる方が増え、課外教室に入会や園庭開放参加へとつなげることができました。

（２）地域と交流している幼稚園

近隣の高齢者施設へ年長組と年中組が訪問し、高齢者とのふれあい(肩たたき、手遊び、うた遊び)を共に楽しんだり、プレゼント交換をしたりと、双方が共に有意義な時間を過ごすことができ、子ども達にとっても良い経験となりました。また、近隣の小学校との訪問・交流会を行うことができ、小学生のお兄さん、お姉さんが優しく対応してくださり、はじめは緊張気味の子ども達でしたがすぐに笑顔が見られ、楽しく過ごしながら小学校に向けて期待をもつことができ、子ども達にとって大変貴重な経験となりました。また、卒園生の頑張る姿を実際に見たり、小学校の先生に様子を伺ったりして教師にとっても有意義な交流会となりました。

【管理運営】

《園児募集》

（１）園児の成長が日々感じられる幼稚園

子どもが頑張ったこと、出来るようになったことを園だより・クラスだよりそして月二回の写真付きクラスメールを連絡アプリで知らせたり、個別に電話で伝えたりすることを心掛け、保護者とのかかわりを深めたり信頼関係を築いたりすることができました。

又、幼稚園内での遊んでいる様子や行事の様子等、HP やインスタグラムの開始により、外部への幼稚園アピールとして子どもの姿を見て頂くことができました。

（２）保育を見学し、体験できる幼稚園

園庭開放や見学会・随時見学等にいらした方を園全体で迎え入れることができました。園庭開放では各学年で保育計画を立案し体験していただいたり、園庭においてみんなで遊んだり、時には保護者の方の相談に耳を傾けアドバイスをしたり、質問にお答えしたりし、一人ひとりの保護者のニーズに寄り添った対応を行うことができ、喜ぶ親子の姿が見られました。

（３）七園で統一された魅力ある給食。

週５日の給食となり、保護者の方から好評をいただいています。また、見学者にも週５日、自園調理による和食中心のメニューであることに関心をもっていただき、入園の決め手の一つとなっているようです。メニューが豊富で毎日のデザートに子ども達は喜び、教師の栄養指導や箸の使い方指導・給食を通して食育にも力を入れ指導を行うことができました。箸指導においては今後も指導の工夫をしながら、家庭との連絡を密にして一緒に取り組んで参りたいと思います。箸指導は教員の指導の統一を図り、子ども一人ひとりに根気よくの指導していくことが大切と反省しています。

（４）満三歳児クラスの充実

四年保育のカリキュラムの充実を図る為、満三歳児クラスの生活や遊びを通して、園児の著しい成長をその都度保護者に伝えたり、写真付きで、連絡アプリでクラスだより・クラスメールの配信で知らせたりしてきました。HP 内では、四年保育の子どもの姿や幼稚園教育の良さを知らせられるような写真の掲載と文面の記載を心がけ、入園者の増加につなげるようにしてきました。見学会や入園説明会においても、四年保育の子どもの成長と三年保育の子どもの違いを話し、実際の子どもの姿もお見せすることで、理解を深め入園者を増やせるようにしてきました。その結果、満三歳児クラスは入園当初の三人から七人に増加しました。

（５）未就園児教室への参加者の増加

未就園児教室の活動の遊び場として、近隣の子育て支援課のお声掛けもあり、見学体験・園庭開放参加より、随時参加者の増加を図ることができました。また、年度末の保護者アンケートにおいて、「先生方の温かい対応に安心できた」や、「母子分離ができるようになった」「遊びを通して成長が見られた」等、高評価をいただくことができました。

《基盤整備》

（６）様々な感染症への対応

新型コロナウイルスやインフルエンザ等の感染症対策においては、子ども達が健康、安全に幼稚園生活を送り、充実した教育活動を行うことができるよう、バス内・保育室内など換気・除菌を心掛けてきました。一学期の間は手洗い指導を強化し、各自が手洗いの大切さを理解して実施できるよう促し、衛生に配慮したマスクの扱い、来園者の消毒の徹底等行ってきました。特に大きな行事の際は、参加者全員にマスク着用をお願いし、体調不良・熱の出始めの方は行事の参加をご遠慮頂くなどのお願いをしてまいりました

ので、年間を通じてクラスターを発生させず感染症対応が出来ました。

（７）業務の効率化とモチベーションの向上

職員会議や行事の打ち合わせや報告会、反省会をその都度行い、教職員の共通理解を図り、業務内容の見直し、業務の効率化について考えて参りました。仕事の効率を考えて改善し、また、教員間のコミュニケーションを大切に、共に声を掛け合い、助け合い、信頼関係を深めてきたことで、働きやすい職場環境・人間関係の構築を図ることができました。

【環境配慮】

（１）環境にやさしい活動

ごみの分別について繰り返し指導してきたことで、子ども達も意識して分別をできるようになりました。また、コロナ禍で行っていなかった廃材遊びの再開により、保護者の方にもエコ活動の大切さを知らせることができ、子ども達も廃材遊びから自分で考えて行う力や工夫する力等を身につけることができました。

（２）ペーパーレス化の推進

保護者の方への連絡を印刷物から「れんらくアプリ」を通した方法へと切り替えました。紙・インク・機械の劣化や使用料等考慮し、ペーパーレス化に移行でき、保護者も紙からアプリ使用になり、スマートフォンで確認しやすくなったようです。特に子どもの様子がわかる園だより・クラスだよりはアプリにて配信とし、保護者の満足度も上がりました。

１０．聖徳大学多摩幼稚園

【教育研究】

《教育の質の向上》

（１）教育目標である「いつもにこにこ元気な子ども」が育つ幼稚園

発達に必要な体験と安定した情緒の下で自己を発揮できるよう幼児の主体的な活動を促して、幼児期にふさわしい生活を展開することができました。

（２）「心」と「体」のバランスのとれた園児の育成

異年齢との交流活動、個別を要する子どもを含め、一人ひとりの発達に必要な体験ができる環境をつくり、園児の伸びる力を引き出してあげることができました。

（３）教育課程の実施状況を評価し、その改善を図る（教員のスキルアップ）

「子どもの主体性を育む保育をめざして」～子どものやりたいを実現するための保育の改善というテーマで附属七園の先生方に公開保育と研究発表を行ないました。保育の改善を行なってきたことで、教育課程を基に保育が展開されていることが改めて証明され、教師たちが教育課程を理解し、共有できたことは大きな成果となりました。保育の質の向上に日々努力しています。

【地域・社会貢献】

（１）子育てパートナーの役割を担う幼稚園

保護者の子育てに関する悩み、保護者のニーズの把握など、積極的に受け入れ対応をしてきました。今後は聖徳大学、聖徳大学幼児教育専門学校の教員や聖徳大学保健センターからの支援をうけ、より子育てパートナーの役割を担う幼稚園を目指します。

（２）就園前の乳幼児が楽しめる幼稚園

父親も参加しやすいように平日だけではなく、一部土曜日に園庭開放を設定したり、イベント性を持たせ、教員全員が就園前の乳幼児と接する日を設定したり、より幼稚園の楽しさを知らせることができました。

（３）地域と交流している幼稚園

昨年度から始めた「地域交流デー」を今年度も開催しました。普段通りすがりで幼稚園を見ている方が足を止めて参加してくださり、幼稚園の生活の一部をみていただき、幼児との触れ合いを楽しんでいただけました。

【管理運営】

《園児募集》

（１）子どもの成長が日々感じられる幼稚園

ホームページでは「幼稚園の様子」を日々更新し、保護者や外部へのアピールを行なってきました。また、クラスの様子をポートフォリオ等で保護者や幼稚園見学者に見せて、幼児が楽しく過ごしている様子と共に成長の過程を随時伝えてきました。

（２）未就園児教室への参加者の増加

１歳児（もも組）から入会を進め、数名の入会者でしたが、入園にむすびつけられました。

（３）満三歳児クラスの充実

一人ひとりがのびのびと喜んで園生活を送っている姿を可視化し、保護者に安心感をもってもらえました。未就園児教室（２歳児）からの移行も早めに入園にむすびつけることができました。

（４）自園調理による給食提供の差別化

自園調理の給食提供は他園より強みであり、月曜日から金曜日までの毎日給食の提供と食物アレルギーの対応を行なってきました。また、未就園児に対して、給食を体験していただくイベントも行いました。

（５）交通手段の利便性の向上

未就園児向けの行事に、利便性の向上のため、園バスを利用して駅との送迎を行ないましたが、残念ながら利用者は少なく「利便性が良くなった」という評価まではつながりませんでした。今後も引き続き交通手段の利便性向上に取り組んでまいります。

《基盤整備》

（６）安全安心な幼稚園つくり

衛生環境を常に整え、様々な危機を想定し、子どもの健やかな育ちを守り支えることができました。

（７）業務の効率化

経費の節約には努力してきました。また、業務内容も見直し、効率化に努めました。

【環境配慮】

（１）環境にやさしい活動をする幼稚園

エコキャップ運動が地域の方にも周知され、エコキャップの回収が増えてきました。そのエコキャップを利用したエコキャップアートを制作、展示できました。また、牛乳パックを再利用し、手作りはがきを作成し、年賀状として活用しました。

（２）ペーパーレス化の推進

保護者への連絡を「れんらくアプリ」を通した方法に切り替え、教職員間の資料においても適宜切り替え、ペーパーレス化を推進してきました。

Ⅲ．財務の概要

(1)決算の概要

①貸借対照表関係

ア)貸借対照表の状況と経年比較

（単位:百万円）

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
固定資産	77,387	75,895	73,555	71,446	70,099
流動資産	6,750	5,394	7,337	5,974	5,058
資産の部合計	84,137	81,289	80,892	77,420	75,157
固定負債	10,983	9,799	11,609	10,473	11,128
流動負債	4,952	5,249	4,963	4,793	3,402
負債の部合計	15,935	15,047	16,572	15,266	14,530
基本金	121,520	122,869	121,639	120,950	121,239
繰越収支差額	△53,318	△56,628	△57,320	△58,796	△60,612
純資産の部合計	68,202	66,241	64,319	62,154	60,627
負債及び純資産の部合計	84,137	81,289	80,892	77,420	75,157

イ)財務比率の経年比較

・運用資産余裕比率、流動比率、総負債比率、前受金保有率、基本金比率、積立率等

（単位:%）

比率名	算式	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
運用資産余裕比率	運用資産－外部負債 / 経常支出	-31.6	-52.6	-52.8	-37.7	-62.3
流動比率	流動資産 / 流動負債	136.3	103.4	147.8	124.6	148.7
総負債比率	総負債 / 総資産	18.9	18.5	20.5	24.6	19.3
前受金保有率	現金預金 / 前受金	365.1	268.7	402.9	320.7	311.7
基本金比率	基本金 / 基本金要組入額	95.4	96.2	96.7	95.3	97.6
積立率	運用資産 / 要積立額	12.0	9.2	12.2	10.1	8.7

※「運用資産」＝現金預金＋特定資産＋有価証券

※「要積立額」＝減価償却累計額＋退職給与引当金＋2号基本金＋3号基本金

②資金収支計算書関係

ア)資金収支計算書の状況と経年比較

（単位:百万円）

収入の部	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
学生生徒等納付金収入	7,243	7,233	7,408	7,211	6,929
手数料収入	159	162	162	152	148
寄付金収入	158	124	231	294	166
補助金収入	1,471	1,475	1,728	1,532	1,487
資産売却収入	465	201	1,006	630	10
付随事業・収益事業収入	299	349	355	363	342
受取利息・配当金収入	38	39	30	35	35
雑収入	400	548	635	909	527
借入金等収入	0	0	3,000	0	0
前受金収入	1,709	1,756	1,623	1,640	1,447
その他の収入	3,771	3,459	3,231	3,669	3,282
資金収入調整勘定	△2,361	△2,266	△2,393	△2,232	△2,113
前年度繰越支払資金	7,011	6,238	4,717	6,539	5,261
収入の部合計	20,363	19,318	21,734	20,742	17,523

支出の部	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
人件費支出	6,223	6,238	6,119	6,191	5,734
教育研究経費支出	2,520	2,522	3,029	2,980	2,792
管理経費支出	1,181	1,160	1,298	1,355	955
借入金等利息支出	127	124	115	147	143
借入金等返済支出	938	938	1,163	1,163	128
施設関係支出	236	170	349	261	118
設備関係支出	234	147	226	247	64
資産運用支出	126	226	26	26	26
その他の支出	3,694	4,110	4,140	4,491	4,011
資金支出調整勘定	△1,156	△1,035	△1,270	△1,380	△960
翌年度繰越支払資金	6,238	4,717	6,539	5,261	4,512
支出の部合計	20,363	19,318	21,734	20,742	17,523

イ)活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

（単位:百万円）

科目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
教育活動による資金収支					
教育活動資金収入計	9,684	9,841	10,323	10,434	10,314
教育活動資金支出計	9,925	9,920	10,446	10,527	10,211
差引	△240	△79	△123	△93	103
調整勘定等	△378	△65	163	△30	△377
教育活動資金収支差額	△619	△144	40	△123	△275
施設整備等活動による資金収支					
施設整備等活動資金収入計	47	51	1,203	658	18
施設整備等活動資金支出計	470	317	575	508	182
差引	△424	△266	628	150	△164
調整勘定等	480	△180	△176	224	△11
施設整備等活動資金収支差額	57	△446	452	374	△175
小計(教育活動資金収支差額＋施設整備等活動資金収支差額)	△562	△590	492	251	△450
その他の活動による資金収支					
その他の活動資金収入計	3,608	3,310	5,704	3,066	3,989
その他の活動資金支出計	3,819	4,240	4,374	4,592	4,292
差引	△211	△930	1,330	△1,526	△302
調整勘定等	0	0	0	△3	3
その他の活動資金収支差額	△211	△930	1,330	△1,529	△300
支払資金の増減額(小計＋その他の活動資金収支差額)	△773	△1,520	1,821	△1,278	△749
前年度繰越支払資金	7,011	6,238	4,717	6,539	5,261
翌年度繰越支払資金	6,238	4,717	6,539	5,261	4,512

ウ)財務比率の経年比較

・教育活動資金収支差額比率

（単位:%）

比率名	算式	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
教育活動資金収支差額比率	教育活動資金収支差額 / 教育活動資金収入計	-6.4	-1.5	0.4	-1.2	-2.7

※教育活動資金収支差額=教育活動資金収入計－教育活動資金支出計＋教育活動調整勘定等

③事業活動収支計算書関係

ア）事業活動収支計算書の状況と経年比較

（単位：百万円）

科目		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
教育活動収支	事業活動収入の部					
	学生生徒等納付金	7,243	7,233	7,408	7,211	6,929
	手数料	159	162	162	152	148
	寄付金	135	118	226	277	162
	経常費等補助金	1,449	1,431	1,536	1,522	1,484
	付随事業収入	298	348	361	362	338
	雑収入	333	413	515	785	417
	教育活動収入計	9,616	9,705	10,210	10,308	9,478
	事業活動支出の部					
	人件費	6,171	6,115	5,981	6,041	5,612
	教育研究費	4,162	4,082	4,590	4,516	4,141
	管理経費	1,462	1,437	1,566	1,615	1,196
	徴収不能額等	1	0	0	0	0
	教育活動支出計	11,796	11,634	12,136	12,173	10,950
	教育活動収支差額	△2,180	△1,929	△1,927	△1,864	△1,472
教育活動外収支	事業活動収入の部					
	受取利息・配当金	38	39	30	35	35
	その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
	教育活動外収入計	38	39	30	35	35
	事業活動支出の部					
	借入金等利息	127	124	115	147	143
	その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
	教育活動外支出計	127	124	115	147	143
	教育活動外収支差額	△89	△84	△85	△113	△107
経常収支差額		△2,269	△2,013	△2,012	△1,977	△1,579
特別収支	事業活動収入の部					
	資産売却差額	98	1	214	123	10
	その他の特別収入	53	56	204	46	60
	特別収入計	150	57	418	168	71
	事業活動支出の部					
	資産処分差額	130	5	328	357	18
	その他の特別支出	0	0	0	0	0
	特別支出計	130	5	328	357	18
	特別収支差額	20	52	90	△189	52
基本金組入前当年度収支差額		△2,249	△1,961	△1,922	△2,166	△1,527
基本金組入額合計		△1,125	△1,349	△356	△237	△289
当年度収支差額		△3,374	△3,310	△2,278	△2,403	△1,816
前年度繰越収支差額		△49,944	△53,318	△56,628	△57,320	△58,796
基本金取崩額		0	0	1,586	926	0
翌年度繰越収支差額		△53,318	△56,628	△57,320	△58,796	△60,612

（参考）

事業活動収入計	9,805	9,801	10,658	10,511	9,584
事業活動支出計	12,054	11,762	12,579	12,677	11,111

イ)財務比率の経年比較

・人件費比率、教育研究経費比率、管理経費比率、事業活動収支差額比率、学生生徒等納付金比率、経常収支差額比率等

（単位:%）

比率名	算式	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
人件費比率	人件費／経常収入	63.9	62.8	58.4	58.4	59.0
教育研究経費比率	教育研究経費／経常収入	43.1	41.9	44.8	43.7	43.5
管理経費比率	管理経費／経常収入	15.1	14.7	15.3	15.6	12.6
事業活動収支差額比率	基本金組入前当年度収支差額／事業活動収入	−22.9	−20.0	−18.0	−20.6	−15.9
学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金／経常収入	75.0	74.2	72.3	69.7	72.8
経常収支差額比率	経常収支差額／経常収入	−23.5	−20.7	−19.6	−19.1	−16.6

※「経常収入」＝教育活動収入計＋教育活動外収入計
※「経常支出」＝教育活動支出計＋教育活動外支出計